
ラブ！キレ（日本語版）

ビタミン愛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ラブ！キレ（日本語版）

【Nコード】

N2711D

【作者名】

ビタミン愛

【あらすじ】

愛は中2の女子で江戸時代に実在した火付盗賊改の子孫^{ひつけとうぞくあらため}！！生か死か！？お笑いツツコミ！！アクション！！エンターテイメント！！

プロローグ1

ラブ！キレ（日本語版）
始まるよ！

某日…

「ギャー！」

泣き叫ぶ赤ちゃん！
手足を縛られている！

愛^{ラブ}

「人生、0・1秒先は
生か？死か？」

ラブⅡ中2の女子で
火付盗賊改の子孫
火付盗賊改

（ひつけとうぞく あらため）
Ⅱ

江戸時代に実在した
放火、
強盗等を
取り締まった
役所（役人）

気生^{きお}

Ⅱ 小4男子

「ボクは

死にたくもないし！

生きたくもないんだ！」

14年前：

時代は人々が

1番萌えている時代：

萌江戸時代

場所は人々が

1番萌えている町

：

萌江戸777町

某日、萌江戸の公園で：

晴天なのに雨がパ

ラッ！パラッ！と降って来た

キツネの嫁入りと呼ばれる天気だ

少し胸騒^きぎ

雨はすぐに上がった

赤ちゃんをベビーカーに

乗せ、散歩する母親

そこへ子ザルが来た

母親

「ゴメンね！食べ物 ないの」

子ザルは残念そうに去る

5分後、別

のサルが来た

サル

「キーー！」！

叫ぶサル

母親

「キアー！」

叫ぶ母親

サルのキバとツメは、

生肉を食ったのか

赤くぬれている

サルはベビーカーに 乗っている赤ちゃんを 抱えて、あっ！と
いうまに消えた

泣き崩れる母親

いくら泣いても赤ちゃんとは、それっきりだった

同時刻

萌江戸から船で30分 行った海上で…

転覆した船の搜索をしている

火付盗賊すべて改たち

（ひつけとうぞくすべてあらため）

火付盗賊すべて改の 仕事は、すべての

犯罪を取り締まり、人と町を 守るために、あらゆる 特殊任務を
こなす事

通称は改

改たちの船から

500メートルの所に、

古い帆船が現れた

京町きょうまち

「遊覧船？」

きなわ

「うらやましい！」

八本木はっぽんぎ

「幽霊船？」

火ろ志ひろし

「幽霊船？そんなバカな！今は萌江戸時代だよ！平成時代じゃあるまいし！」

改たち

「ワッ！ハッ！ハッ！」

と大笑いする

大洗の海じゃないのに！茨城県の人にはウケるんですけど…

改たち

「わあー！」

突然、大波が改たちの

船を襲う

転覆する船

海に投げ出される改たち

必死に泳ぐ火ろ志

火ろ志

「これは、

さっきの幽霊船の

たたりか？

京町！

頭かしら！きなわ！

八本木！」

仲間がすべて消えた！ 頭から出血している！ サメが来た！海水で 体温が下がり震える

火ろ志

「終わりだな」

海中に沈み始める

スウーと火ろ志に何か
タトゥーの男

接近する
「手につかまれ！」

火ろ志は頭にヘビの
タトゥーがある男に

助けられた
火ろ志

「ありがとう！」
気を失う

萌江戸北町病院で…

眠りから覚める火ろ志
火ろ志

「他のみんなは？」

看護師

「改頭しんざの渋矢しぶやさんが行方不明です」

あらためかしら
改頭しんざⅡ隊長

ショックで声も出ない
火ろ志

「私を助けてくれた、
頭にヘビのタトゥーが ある男性を知りま
せんか？」

看護師

「そのような人の話は聞いてませんし、見ても いません」

その日の夕方、病院の 廊下で…

あゆめ

「早く退院できるといいですね！」

火ろ志

「あなたも！」

あゆめは実家がある

大トロピカル島で大津波にあい入院した

あゆめは過去の記憶を 失っていた

火ろ志の船が転覆した 原因

も大津波だった

3日後…

2人は病院を抜け出し 夜汽車に飛び乗った

14年後、

某日の朝…

萌江戸北町学校に

登校して来る生徒たち

校門をはきそうじする

勝^{かつ}校長

教室で…

癒し系3人組、まみ、

むめ、もも登場！

まみ

「あっ！もも髪型

変えた？」

もも

「わかる？」

むめ

「ふわゆる

パーマでしょう？」

もも

「ブー！はずれ！

ゆるふわです！」

むめ

「それ！同じ！」

セクシー系3人組、

K、L、M登場

K

「もも！失敗パーマ！

L

「かわいそう！」

泣くもも！

M

「りゅう様も

かわいそうって言うてる！」

りゅう「イケメンの

クラスメート

もも

「そんな事言っ

ないもん！りゅう様！ ももに優しいもん

！」

K

「りゅう様はみんなに 優しいの！」

まみ

「もも！泣かないで、
こんな子たちに負けないでグレアビアダビュ
ーしたんだから！」

K

「そんなのとつくの
昔やりました！」

むめ

「着物モデル
やりました！」

L

「こっちは水着モデルよ！」

M

「はい！私たちの勝ち！」

まみ

「ねえ！男子！私たちの方がいいよね？」

戸江萌^{どえも}

「うーん！迷うな！」

戸江萌「おスモウ部で
ニッケネームはドM

まみ

「男子って言っても
イケメン限定なの！」

K 「ドMは、

まわしつけて、
しこふんで塩まいて
ちゃんこ作ってる！」

むめ

「もも！
もう泣かないで！
ム の トップングおごるから！
今日アイスクリー

まみ

「トップングっ 無料の日あるよね！」

むめ

「今日！」

始業チャイムが鳴る

教師が教室に入って来た生徒たちは見た事のない顔の教師にざわつく

金ニック・ジュニア 「今日からこのク

ラスの担任になる

金ニック・ジュニアだ！

金ニック・ジュニア「 韓国系アメリカ人」 タンクトップに短

パンで筋肉がモリモリしている

金ニック・ジュニア 「私を

ラブ！キレの主人公に して欲しい！」

K

「今、来たばかりで！？ムリでしょう！？」

金ニック・ジュニア 「今回は、あきらめます

だけど、
ラブ！キレ2の主人公に絶対なってる！」

桜子^{さくらこ} 「親に甘やかされて 育ったな！」

金ニック・ジュニア 「このクラスの前の担任

だった前野先生は都合により退職しました」

^{だいがくお}
大学生

「都合ってなんですか？」

金ニック・ジュニア

ア 「2人の秘密なので話せません！」

大学生

「病気ですか？」

金ニック・ジュニア

「じゃあ、話します」

ましん
魔心

「秘密ばらすの早くね？」

金ニック・ジュニア

「前野先生は長年

の夢 だった、田舎暮らしのため退職して引越しました」

大学生

「どこへ引越したんですか？」

金ニック・ジュニア

「2人の約束なので話せません！」

大学生

「アメリカですか？」

猫多
ねこた

「北朝鮮ですか？」

戸江萌

「トリニダードトバゴですか？」

トリニダードトバゴですか？」

金ニック・ジュニア

「トリニダードト

バゴってスラッ！と言えるように練習しなさい！じゃあ、話します」

魔心

「約束破るの早くね？」

金ニツク・ジュニア 「中トロピカル島に 引越しました

授業始めるぞ！今日は 校長のかつらが自然な 感じなので、1日
体育、水泳です」

だいがくお
大学生」

学年で成績NO・1

ましん
魔心」

暴走部の部長

世路市区（よろしく！）

ねこた
猫多」

猫より睡眠時間が多い男

プールで…

金ニツク・ジュニア 「男子はクロール

3000メートルの記録を取る！

女子は自由行動です！

女子たち

「やったー！」

金ニツク・ジュニア 「男子！クロールが 終わったら平泳ぎ

3000メートルの記録を取る！」

ばす（5つ子の長男） 「水泳部かよ！」

金ニツク・ジュニア 「女子はビ

ーチボール 使っていていいです！

男子！平泳ぎが
の記録を取る！」

終わったら背泳ぎ

3000メートル

「日本代表かよ！」

だんく（5つ子の次男）

金ニツク・ジュニア

「女子はサンオイル

使っていていいです！

男子！背泳ぎが
の記録を取る！」

終わったらバタフライ

3000メートル

しゅと

（5つ子の三男）

「魚介類かよ！」

金ニツク・ジュニア

「女子は、お昼に

プールサイドでバーベキュー やりまーす！」

女子たち

「やったー！」

金ニツク・ジュニア

「男子は教室で弁

当食べ！」

K

「3Dかわいそうー！」

3D＝イケメン3

人組の龍、竜、りゅうの事

（りゅう＝DRAGON）3人のDRAGON

だから3D

K

「先生！男子も
！」

自由行動にして下さーい！お願いしまーす

金ニツク・ジュニア
意思が強いんだ!」

「ダメだ!1度決めた事は変えない!私は

M

「先生つてイケメンで

カッコイイ!」

むめ

「足!長ーい!

スタイル最高!」

L

「筋肉スゴーい!」

K

「付き合いたーい!」

まみ

「付き合いたーい!」

金ニツク・ジュニア

「じゃあ男子も自

由行動だ!」

魔心

「意思、弱くね?」

金ニツク・ジュニア

K 「さっきの話だけど…」

「何の話ですか?」

金ニツク・ジュニア

「付き合いたいと

か…」

K

「ムリ!」

ぱす(長男)

だんく(二男)

しゅうつと（三男）

りんぐ（四男）

ごおる（五男）

5人は5つ子で全員
バスケ部

5人の身長は全員
2メートル99センチ

次の日の朝

ラブの自宅で…

火ろ志

「ラブ！今日の午後、
！」 お客さんが来るから、
お茶を出してくれ

ラブ

「ハイ！父上！」

夕方、

萌江戸北町

火付盗賊すべて改本部 道場で…

サングラスの男

「ごめん下さい！」

ベイ

「はい！何のご用ですか？」

サングラスの男

「剣のけいこを見学
ベイ

したいのですが？」

「はい！どうぞ！若いのに偉いですね！」

サングラスの男

「泣かす…イヤ！失礼　します！」

いきなり道場の真ん中に行くサングラスの男

サングラスの男　「道場破りだ！」

道場破りの目的は？　お金？修行

？売名？

アルコ

「あーあつ！めんどくせー！たまに来るんだよねー！こういうの！」

由自

「ちょっと待って！相手決めるから…ジャンケンでいいか？」

ジーマ

「子供は自転車で走り回ってる！」

シュー

「まあ！まあ！おさえて！おさえて！子供は、

なあーばうや！マ

よく言って聞かせれば　わかるから！

ンガか何か見て、マネした　かつたんだよねあー？」

サングラスの男

「ちがう！」

シュー

「あつ！わかった！　罰ゲームだな？友だちが外で見てるんだな

あ？」

サングラスの男

「すきあり！」

シュー

「ギャー！」

サングラスの男にへそを打たれるシュー

サングラスの男

「はい！次の患者さん　どうぞ！」

「寝言は寝て言え！」

由自

サングラスの男を攻撃 する由自

かわすサングラスの男

由自

「ギャー！」

サングラスの男に木刀でへそを打たれる

目で合図をして

サングラスの男のまわりを取り囲む改たち

一斉に前から後ろから サングラス

の男を 攻撃する改たち

サングラスの男

「へそ！へそ！へ

そ！」

あっ！というまに改たちを倒していく

そこへラブが来た

窓から道場の中を

見た

ラブ

「あのサングラスの

人だな？！朝、父上が話していたお客様は！お茶をお出ししまし
う！」

サングラスの男の勢いはスゴく10人以上

の 改を一気に倒した

サングラスの男

「あと1人か？」

ジーマ

「ケガしねーうち帰りな！」

サングラスの男

「はい！」

ジーマ

「よし！いい子だ！」

サン格拉斯の男

「帰るのはテメーを倒してからだよ！」

戦う2人！カン！コン！激しくぶつかる木刀

サン格拉斯の男

「へそ！」

ジーマ

「ギャー」

倒れるジーマ

そこへラブが来た

ラブ 「ご指導

ごくろうさまです！

お茶をどうぞ！」

サン格拉斯の男

「どうも！」

ラブ

「どちらから

いらっしゃったんですか？」

サン格拉斯の男

「町内です」

ラブ

「そうだと思いました

予想してました」

サン格拉斯の男

「予想？」

ラブ

「はい！町内から今ごろの時間においでになるとー！」

これは、

オレを倒す

ワナだ！ヤバイぜ！

この女子！オレが他の
道場破りもやったって

知ってるんだ！と

思うサングラスの男

そこへ火ろ志が来た

サングラスの男に

イタクされて座り込んでいる改たち

火ろ志

「これは何事だ！」

ラブ

「お客様が剣の

ご指導して下さいました

火ろ志

「その男は知らない！」

ラブ

「父上が朝、話していたお客様とちがうのですか？」

火ろ志

「ちがーう！」

か？」

サングラスの男

「やっと主役登場

火ろ志

「君は？」

サングラスの男 「道場破りです」

火ろ志

「ぼうやにしては
がんばったよ！」

サングラスの男 「オレ！ほめられると
のびるタイプ！だ
から、

あんまりほめない方が
いいよ！もつと
強くなっちゃうから！」

火ろ志

「私は素手でも君を
倒せる！」

サングラスの男 「あそびは終わり

だ！」

サングラスをはずす男
男の目の色は

右目がブルー
左目がグリーン

サングラスの男

「勝負の前に、
お茶もう一杯！」

ラブ

「ムリ！」

サングラスの男 「泣かす！」

火ろ志

「ラブ！母さんに
お金もらってきて、
この人にやってくれ！」

サングラスの男

「金はいらねーよ！早く勝負しろ！」
ラブ

「この勝負、ラブも参加します！」

サングラスの男

「女子はママごと

してる！」

ラブ

「いざ！」

右手に1本、木刀

を持ち背中に1本、木刀を さしているラブ

サングラスの男

「女子はプリン作

ってる！」

ラブ

「ラブ！」

キレまーす！」

プチギレするラブ！

改たち

「ガンバレ！ラブちゃん！ガンバレ！ラブちゃん！」

ラブ

「いざ！」

両手に1本づつ木刀を 持ち、

背中に1本、木刀をさしているラブ。

サングラスの男

「女子に勝つても うれしくねーし！」

この女子！二刀流か？ 背中の木刀が気になる！もしかした

ら、この女子！スゴく強いかも？

と思うサングラスの男

改たち

「道場破りさん！

ビビってる！

道場破りさん！

ビビってる！」

サングラスの男

「オレ！女子、

泣かさねータイプだし…あの…その…やめた！
やめた！」

道場から出て行く

サングラスの男

シュー

「ラブちゃん！スゴい！道場破り
追い出しちゃったよ！」

サングラスの男

「ごめん下さい！」

さっきのサングラスの男とはちがうサングラスの男が来た

サングラスの男

「わぁー！」

ラブの木刀の一撃をギリギリよける

ラブ

「くっ！しくじった！」

火ろ志

「ラブ！やめなさい！」

ラブ

「父上！ココはラブに 任せて下さい！」

火ろ志

「その人が朝、

話したお客さんだ！」

サブ

「先輩！そのあぶない女の子は？」

火ろ志

「娘のラブだ！」

ラブ

「ゴメンなさい！」

サングラスして道場に 来る人は、みんな道場 破りだと思ったんです！

サブ

「ラブちゃんの

攻撃をかわせないよう

じゃオレは改、引退するよ！」

ラブ

「すきあり！」

ラブの木刀の一撃がサブのうでにあたる

サブ

「あっ！」

ジーマー元マジシャン

本人は、お金を使った

マジックが得意と言っているが、時々、お金が消えたままになって

しまう。彼にマジックを

やるから、お金を貸して

と言われたら

「断る！」とキッパリ

言ってやろう！

ベィ〓新人の改
ベィビーのベィ

アルコ〓

ビール大好き！

アルコールのアルコ

由自〓名前の由来は自由

シュー〓元パティシエ
シュークリームのシュー

次の日、道場破りの サンガラスの男の家で…

りある

「変な女子が出て来て、道場破りダメになった！成功すればいい会
社の

用心棒になれたのに！

また、同じような事が

あるとダメだから

オレ就職する！」

まゆめ

「お父さんがいれば、 こんな苦労しないのに…

りある

「コレ！落ちて

ただんだけど…」

1枚の古い写真を

まゆめに渡す。

まゆめ

「あっ！ソノ写真は！」

りある

「マザー！ふたごだったんだ？」

まゆめ

「そうよ！姉さんにも、りあると同じ歳の子供がいても不思議じゃなかったのに…
かわいそうに…」

りある

「かわいそう？」

まゆめ

「姉さんは死んだのよ」

次の日、りあるの自宅で…
りある

「マザー！」

めし食ってから仕事探し行くよ！」

まゆめ

「りある！」

お米ないわ！」

1時間後、萌江戸北町で…

りある

「楽で給料の

いい仕事ねーかな？」

萌江戸北町学校の校門で…
りある

「用務員募集？」

校長室で…

用務員になるために面接をするりある。

勝校長

「学校へ行って ないのでですか？」

りある

「はい！母子家庭で
学費がありません」

勝校長

「採用します！ただし 条件が2つあります

1つは、この学校で
勉強して卒業する事 もう1つは今、腰に さしている刀を学
校に 持ってこない事！」

1週間後…

萌江戸北町火付盗賊 すべて改本部道場で…

小雪

「あつ！ラブちゃんに 負けた男子だ！」

小雪は5歳で海雪の娘

りある

「オレの名前は
ラブちゃんに負けた男子じゃねえー！ちびっこはあっち行け！」

小雪

「ちびっこじゃないよ！私の名前は雪小雪！
から 読んでも雪小雪！」 右から読んでも左

りある

「完全に親に
言わされてる！」

りある

「小雪！幼稚園は？」

小雪

「1日行つて
それっきり！」

りある

「登園拒否かよ！」 そこへ海雪が来た

海雪は北町改本部で お手伝いさんをしている

海雪

「あなたは？」

りある

「北町学校で用務員 やつてりあるです」

海雪

「あなたがラブちゃんに負けた男子ね！」

りある

「結局！このへんじゃ オレ、

ラブちゃんに 負けた

男子って呼ばれてるんだ！悲しい！オレ！

ガンバレ！」

某日、中トロピカ

ル島で…

中トロピカル島は萌江戸から船で3時間の所に ある

墓荒らしの男

「やっと見つけたぜ！ コレが

「冷蛇王」の

墓か！どんな宝があるか楽しみだぜ！」

れいじやおう 冷蛇王れいじや 江戸時代の犯罪組織 「冷蛇」

のトップ

墓の中には、おり紙、 竹とんぼ、巻物が

あった

墓荒らしの男

「宝の地図か？

オレは大金持ちだ！ワッ！ハッ！ハッ！」と 大笑いして
巻物を見る男

巻物には、こう書かれていた…

未来の私へ元気にやっていますか？…

墓荒らしの男

「タイムカプセルかよ！

萌江戸北町のコンビニの駐車場で…

1匹のサルが現れた サルのキバとツメは生肉を食ったのか、

赤くぬれている

サルは車の中にいた 赤ちゃんを

抱いて あっ！というまに消えた その

事件を捜査する 改たち

北町改本部で…

火ろ志

「サルが人間の

赤ちゃんを誘拐する事件は過去にあったか

？」

火ろ志ひろし あらためかしら 改頭 隊長

日田

「江戸時代にありました！冷蛇の手口です！冷蛇はサルに赤ちゃんを誘拐させて売っていました！」

火ろ志

「冷蛇は滅びたはずだが？アルコ！ジーマ！」

赤ちゃんを救え！

サルを捕まえろ！」

アルコ・ジーマ

「了解！」

1時間後、赤ちゃんは

無事保護されたが、サルは捕まらなかった

現場に落ちていたサルの毛を持ち帰るアルコ

3日後、萌江戸西町改頭の八本木^{はっぽんぎ}たちが事件を起こした　サルを捕まえた

サルの事件は冷蛇王の

墓を荒らしたから起きた！これは冷蛇王の

たたきだ！と

人々はスゴクおびえた！

次の日、

北町改本部で…

ベイビーハウス職員

「サルの事件を見て

来ました。

14年前に

ベイビーハウスに置いていかれた赤ちゃんが手にコレを持っていた
した」

ベイビーハウス”

赤ちゃんを

育てられない親が赤ちゃんを

預ける施設

火ろ志

「コレは、もしかして　サルの毛？14年前も　サルが誘拐事件を
起こしたのか？

日田！この毛の

DNA鑑定をたのむ！」

30分後：

日田

「頭！ベイベーハウスの職員が持ってきた毛と アルコが持ってきたサルの毛のDNAが一致しました！」

でいた
日田

コンピューターと科学が得意

火ろ志

「今回のサルが14年前も赤ちゃんを誘拐したのか？」

日田

「そうなります！ 他の可能性としては、クローンザルです！ クローンザルなら何匹 いてもDNAは一致 します！」

次の日、萌江戸北町学校の教室で：

戸江萌

「桜子が入院しちゃったぞ！」

K

「えっー！ バンドコンテストまで あと2週間だよ！ 大ピンチ！」

桜子^{さくらこ} バンド、

クラスメイドールの ヴォーカル

バンドコンテスト バンドコンテスト

バンドコンテスト

このコンテストで

優勝すると萌江戸で
CDデビューできる！

まみ

「1年に1度の
チャンスだよ！どうする？」

L

「桜子の代わり
見つかるかな？」

むめ

「見つけた！」

魔心

「見つけるの早くね？」

むめ

「あんず！歌、
歌える？」

あんず

1番だけ…
2番は覚えづらい

「校歌なら
からダメ！」

あんず「ラブの大親友

コンタクトレンズが
怖くて使えないので
メガネをかけている

むめ

「あんずじゃムリか？」

M

「あつ！ラブは？」

魔心

「ラブって主人公だけどキャラ弱くね？」

K

「それ！みんな、
うつすら感じてるよ！」

まみ

「今から主人公、変える?」

ラブ

「何の話?」

まみ

「あつ!ラブ! びっくりした!」

L

ラブとあんず 2人ヴォーカルっ

「じゃあ! ての どう?」

むめ

「あんずが メガネっ子だからラブもメガネかける?」

K

「逆にあんずはメガネを捨てる!」

あんず

「わあー! 私たちを無視して話がドン!ドン! 進んでる!

ラブちゃん止めて!」

ラブ

「ラブ!メガネっ子になってもいいよ! コンテストまで、

あと2週間しかないんだもん早く練習しないとまにあわないよ!」

まみ

「じゃあ! ヴォーカルやつてくれる?」

ラブ

「うん!クラスメート

助けなきゃ!やろう! あんずちゃん!」

あんず

「うん!メガネ捨ててもいいよ!コンタクト
レンズ練習する!」

ラブ

「まみちゃん！質問が
ありまーす！」

まみ

「なーに？」

ラブ

「ヴォーカルって何？」

同日、北町改本部の食堂で…

サブ

「あーあっ！はらへった！」

海雪

「みなさんゴメン
なさい！炊飯器の調子が悪かったので、
遅れまーす！」

お昼ごはん15分

小雪

「遅れまーす！」

小雪

「ジーマさん！マジック見せて！」

ジーマ

「いいよ！じゃあ！お金を消すマジックやるよ！小雪ちゃん！
現金100億萌円、用意して！」

100億萌円〃

100億円

小雪は、おり紙を

折り始めた

小雪は、つるを折った

小雪のつるは少し変だ！

サブ

「小雪ちゃん！つるは、こう！折るんだよ！」

つるを折るサブ

5分後、折ったつるを小雪に渡すサブ

海雪につるを見せに行く小雪

小雪

「ママ！見て！サブさんが折ったペンギンさん！」

サブのつるも

少し変だった

炊飯器

「ピーー！」

ごはんが炊けた

某日、萌江戸北町学校の教室で…

金ニック・ジュニア 「今日からみんなと
ラブ君だ！みんな仲良くするように！」
いっしょに勉強す

愛^{あい}

「私の

名前は愛と書いて

（あい）です！」

金ニック・ジュニア 「あっ！メンゴ！メンゴ！いや！ゴメン！
ゴメン！このクラスには 愛と書いてラブという 女子がいる
から同じだと思った！あい君の席は ラブ君のとなりです！」

休み時間…

ラブ

「愛と書いてラブです！よろしくね！」

あい

「私は愛と書いて

(あい)」

ラブの両目の色はブルー

あいの両目の色は

グリーン

某日、萌江戸でサルが 3日連続、1日に 1人づつ赤ちゃんを 誘拐した

北町改本部に入った情報によると、 サルは赤ちゃんを抱いて古い帆船に乗ったそうだし、古帆船はパツ！と、あつ！というまに

消えたそうだし

古い帆船は幽霊船だと 人々はスゴくおびえた

そしてサルが赤ちゃんを誘拐した事件は冷蛇王の墓を荒らしたから冷蛇王のたたりだと人々は スゴくおびえた

萌江戸でサルが3日連続、1日に1人づつ 赤ちゃんを誘拐し

た事件の3日目、

北町改本部で…

火ろ志

「日田の調べでサルに 赤ちゃんを誘拐させて 売るのは、江戸時代の 犯罪組織

「冷蛇」とわかったが

「冷蛇」

は江戸時代に滅びたはずだ！」

日田

「復活したんでしょうか？」

火ろ志

「そうだとすると やっかいだな！他に情報は？」

日田

「「冷蛇」は海賊、サルまわし、へびつかいもやっていました

子孫は中トロピカル島の

モンキービレッジと

スネークビレッジに

住んでいます

モンキービレッジの

村人はサルを神の化身

だと信じてサルをとて

大切にしています

それと、この村は昔から海の神にいけにえを ささげています」

火ろ志

「いけにえ？何のために？」

日田

「海の神に、いけにえをささげると津波が来ないそうです。他にも

無病息災、豊作、豊漁、女子にモテモテになる等、ハッピー

になるそうです」

火ろ志

「それだ！赤ちゃんを 船でモンキービレッジに運んで、

いけにえにしているんだ！アルコ！ジーマ！ モンキービレッジ

へ急げ！赤ちゃんを救え！」

アルコ・ジーマ

「了解！」

同日、中トロピカル島のモンキービレッジで…

いけにえの儀式を

木のかげに隠れ見ているアルコとジーマ

ドン！ドン！ドン！

たいこの音にあわ

せて 激しくおどる村人たち

サルもおどる

アルコ

「サルに赤ちゃんを誘拐させて船で運んで
いたんだな！」

ジーマ

「恐ろしい村だ！」

豚

「ブヒー！ギョエツ！

豚は殺されるのかわかるのか？泣き叫ぶ！

血だろうか？

赤い液体が銀の器に

たっぷり入っている

村人とサルに銀の器が

まわされる。赤い液体を

ゴクッ！ゴクッ！と

飲む

村人たち

「ワッ！ハッ！ハッ！」

と大笑いして

激しくおどる

赤ちゃん

「ギャー！」

泣き叫ぶ赤ちゃん

泣いて暴れる赤ちゃんの

手と足をへびの皮で

作ったヒモでしばる村長

村長

「許してくれ！」

村のためだ！」

母親

「ゴメンね！ゴメンね！」

泣く母親

母親

「最後のミルクよ

飲みましょうね」

村長

「ダメだ！飲ませるな！海の神はミルクがキライだ！」

赤ちゃん

「ギャー！」泣き叫ぶ

海の神に、いけにえを

ささげる時が来た

赤ちゃんの足を海に

付け始める村長

「ワッ！ハッ！ハッ！」

村長

激しく笑い、おどる

母親

「もう！やめて！」

村長のうでをつか

み、赤ちゃんを助けようと　する母親

村長

「じゃまだ！おまえも　いっしょに、いけにえにしてやろうか！」

アルコ

「今だ！ジーマ！」

赤ちゃんを助けるぞ！」

ジーマ

「了解！」

木のかげから飛び出し、刀を抜き、赤ちゃん

んを　救出に向かう2人

それに気づく村長

村長は持っている刀を　ギョッ！とにぎった

村長

「はい！OKです！」

赤ちゃんがカゼひかないように、タオルで

良く拭いてあげて

下さいー！」

かたまるアルコとジーマ

母親

「あーあっ！やっと

終わった！パパ！何で　うちの赤ちゃんな

のよ！

父親

「くじ引きだから

しょうがないじゃん！」

母親

「来年、またうちの
パパがいけにえの役
やってよ！」

赤ちゃんだったら、

この村は本当に赤ちゃんをいけにえにしている わけではなかった
村まつりで行われる 海の神にハッピーを祈願する儀式だった

そうになると古い帆船は サルと赤ちゃんを乗せてどこへ？

次の日、下校する 生徒たち。萌江戸北町のコンビニで…

りある

「おーい！ラブ！」

ラブ

「なーに？」

りある

「ラムネおごつてやるよ！」

ラブ

「やったー！」

2人でラムネを飲む

ラブ

「りある君の刀、
見せて！」

りある

「いいよ！」

ラブ

「りあるって彫ってあるカツコイイ！」

りある

「おーい！あい！」

あい

「何？」

りある

「ラムネおごってやるよ！」

あい

「炭酸キライ！」

りある

「ラムネは炭酸じゃねーよ！」

あい

「じゃあ、飲む！」

りある

「あい！ビンの底に　ラムネの果汁が沈んでるから、よく振って
飲みな！」

ラムネのビンを

激しく振るあい！

ラブ

「わぁー！振っちゃダメ！」

あい

「知ってる！」

ベンチに座ってラムネを飲む3人

あいはビンの口にビー玉がころがってきて、　　うまく飲めない。

りある

「アチャー！あい！　　ラムネの飲み方、　　知らねーの？」

あい

「知ってる！」

しかし、何回もビンの口にビー玉が

ころがってくる

りある

「あい！くぼみにビー玉を置いて飲むんだよ！」

あい

「知ってる！」

あい

「このビー玉、　　外に出ないの？」

りある

「ビン！割るしかねーよ！」

あい

「このビー玉　　かわいそう！ずっと　　この中で…外の世

界に　出られなくて…私と同じ！もう

自由にして！」

ラムネのビンを地面に　叩きつけるあい

「ガッシャーン！」

スゴい音がしてラムネのビンが割れた

ラブ

「あいちゃん！」

走り去るあい

ラブ

「あいちゃんは今ラムネが炭酸飲料って知らなかったし、飲み方も知らなかった

いったいどういう生活してるんだろう?」

りある

「ビー玉かわいそうとか私と同じとか、女子の考えている

事はわかんねーよ!」

割れたラムネのビンを一瞥づけるラブとりある

ビー玉はビンの外へ出て自由になったが割

れていた

次の日、北町改本部で…

火ろ志

「モンキービレッジでは本当に赤ちゃんを

いけにえにしているわけではなかった。早く3人の赤ちゃんを捜さなく

ては!サルが

幽霊船っぽい古い帆船に乗ったと情報がある!

古い帆船の捜索をする!サブ、由良、シユー 出動だ!」

3人

「了解!」

萌江戸から船で30分の海上で…

サブ

「サルが船に乗った　なんて本当かよ？」

由自

「うその情報かも　しれせんね」

シユー

「もう帰りましょう！」

サブ

「あと2時間は捜さねーと帰れねー！」

シユー

「サブさん！コーヒー　飲みますか？」

サブ

「あー！たのむ！　シユーの入れたコーヒーはうまいからな！
さすが元パティシエ！」

由自

「パティシエ関係　あるかな？」

シユー

「どうぞ！」

サブ

「うまい！コーヒー豆を選ぶところからやってるだけあるよ！
喫茶店やれば？」

シユー

「それ！　インスタントコーヒー　です！」

2時間後：

サブ

「帰るぞ！」

由自

「サブさん！あれっ！ 帆船ですよ！」

シユー

「しかも古い！」

サブ

「オレも見える！ 3人見えるって事は 幽霊船じゃあねー

！ 捕まえて正体をあばくぞ！」

古い帆船に接近するサブたちの船

サブ

「止まれ！改だ！」

静かに止まる古い帆船

サブ

「こんなにあっさりと 止まるのは怪しいぞ！ 気をつけろ！」

船長

「事件ですか？」

サブ

「古い帆船が犯罪に

関わっていると情報が ありました！船内を 見せて下さい！」

船長

「どうぞ！」

サブ

「由自！シユー！

調べる！油断するな！

由自・シユー

「了解！」

シユーが古い帆船に片足をかけた

その時！古い帆船が
急に動いた

シュー

「あっー！」

足が大きく開き海に 落ちるシュー

三角のヒレが6、

7コ 見える

由自

「サメだ！シュー 早くロープにつかまれ！」

由自

「わあー！もうダメだ！…サブさん！」

サブ

「何だ！」

由自

「イルカでした」

5分後：

シュー

「ふっー！助かった！ すいません！オレが海に落ちなければ捕ま
えられたのに！」

サブ

「気にするな！ あのヤローが、わざと 船を動かしたから
だ！」

10分後、一隻の船が 現れた。古い帆船を搜索する南町改たちの船だ

古い帆船に接近する 南町改たちの船

きなわ

「止まれ！改だ！」静かに止まる古い帆船

きなわ

「こんなにあっさり

止まるのは怪しいぞ！

気をつける！」

船長

「事件ですか？」

きなわ

「古い帆船が犯罪に 関わっていると情報が ありました！」

船内を見せて下さい！」

船長

「どうぞ」

きなわ

「はぶ！しいさ！調べる！油断するな！」

はぶ、しいさ

「了解！」

はぶが古い帆船に片足をかけた

その時！古い帆船が急に動いた

はぶ

「あっー！」

に 落ちそうになるはぶ

はぶ

足が大きく開き海

「セーフ！」

古い帆船に乗り移った、はぶとしいさ
しいさ

「動けば斬る！」

刀を抜くしいさ

船長

「わかった！」

しいさ

「この船の名前は？」

船長

「CARNIVAL

（カーニバル）

スター
STAR号 です」

しいさ

「この船の所有者は？」

船長

「COFFEE

（コーヒー）

シュガー
SUGAR社の坂

本社長です」

しいさ

「この船はいつ

作られた？」

船長

「15年前です」

しいさ

「他に乗組員は？」

船長

「いません！」

船室を開けるはぶ

はぶ

「おい！出てこい！」

乗組員 A

「わぁー！斬らないで！」

はぶ

「他に乗組員は？」

乗組員 A

「いません！」

はぶ

「おい！出てこい！」

乗組員 V

「わぁー！斬らないで！」

はぶ

「他に乗組員は？」

乗組員 V

「いません！」

はぶ

「おい！出てこい！」

乗組員 H

「わぁー！斬らないで！」

はぶ

「他に乗組員は？」

乗組員H

「いません！」

100%まだいる！

結局、

船長の他に

108人の乗組員がいた

古い帆船と乗組員は 萌江戸南町改本部

で 取り調べを受ける事になった

2時間後、萌江戸南町改本部で

古い帆船の船長を
つと 怪しい！

取り調べてわかった事は船長の名前がちよ

船長の名前は

「都梨聡」

「となし さとる」

「となし」だから

「さとる」の

「と」を

なしにする

「さる」が現れた！

この船長が事件を

起こしたサルと

3人の赤ちゃんを隠しているのか？

2月14日
教室で

バレンタインデー

萌江戸北町学校の

あい

「義理じゃないよ!」

「トを渡すあい

りあるにチョコレ

りある

「どうも!」

ラブ

「わあー!」

義理じゃないって事は 本命! あんずちゃんの ライバル出現だ!」

あんず

「ラブちゃん!

声大きいよ!」

あい

「義理じゃないよ! ラムネのお礼!」

ラブ

「なあーんだ! つまんない! あいちゃんとあんずちゃんの

ドロ、ドロした女の戦いが見られると思ったのに

あんず

「ラブちゃん! コレ!

渡してきて!」

チョコレートだ!

ラブ

「自分で渡しなよ! その方が喜ぶよ!」

あんず

「恥ずかしいよ!」

ラブ

「わかったよ！」

あんず

「あんずからって 言わないで！」

ラブ

「これ！ある女子から！」

りある

「どうも！」

あんず、りある、ラブと
並んで自分の席に座っている

ラブ

「あんずちゃん！ りある君喜んでたよ！」

あい

「ラブちゃん！ りある君に聞こえてる！」

まみ

「龍様に手作り チョコあげちゃおう！」

K

「失敗チョコ！龍様 かわいそう！」

L

「むめのチョコ！ オバさんクサーい！
地味！ 昭和40年代の二オイがプン！プン！」

むめ

「Lはチョコ！ 万引きしました！」

M

「りゅう様が、
もものチョコだけ
捨てたって！」

もも

「捨てないもん！」

りゅう様ももに

優しいもん！」

K

「りゅう様は、みんなに優しいの！」

江戸時代の某日、

シベリアの永久凍土の町で…

雪が降る夕暮れ

若

「じい！なぜ逃げる？」

じい

「捕まるとイヤがらせ
されます！」

若

「どんな？」

じい

「コンビニの
倒されたりします！」

レジでプリンを

若

「じい！逃げるぞ！」

火付盗賊改の男

「いたぞー！」

じい

「若様！この穴に入って下さい！」

穴の中に入る若と若の ペットのポチ（サ

ル）

5分後…

火付盗賊改の男 「じじい！おとなしく 捕まるか？死ぬか？」

刀を抜くじい！
じい

「ギャー！」

じいは首を切断された

穴の中で…

若

「ポチ！寒いぞ！」

ポチ（サル）

「キイー！（オレは毛皮だから暖かいよー！）」
若

「そうか！寒いのか！ かわいそうに！」

ポチ

「キイー！（テメー！ このガキ！ホッペタ くつつけてんじゃねーよ！暑いんだよー！）」

穴に雪が降り積もる

若とポチ（サル）は寝てしまった

誰か起こしてあげて！

死んじゃうよ！…

勝校長の自宅のベッドで…

勝校長

「じい…若様…

ポチ（サル）…ま

た、

同じ夢を見た！」

次の日、萌江戸北町学校の校長室で…

校長室に客が1人

冬葉博士

「元気そうですね！若様！じいとポチ（サル）は元気ですか？」

勝校長

「若様？じい？ポチ？

どこかで聞いたような？

あつ！夢で何度も

見ている！」

冬葉博士

「校長が何度も見ている夢は実際に校長が

体験した事です！

校長は若様です！」

勝校長

「冬葉博士がシベリアの永久凍土で氷づけに なっていた私を蘇
らせてくれたんですね！ ありがとうございました！でも、な

ぜ冬葉博士は私を蘇らせたあと私を 置いて行ってしまったのです
か？」

冬葉博士

「あの時はシベリアで マンモスが氷づけに なっていると連絡
がありシベリア行きの飛行機に乗った

そして機内食が配られたその機内食のハンバーグの上にチーズがの
って いたので、

スチュワード스에

チーズは食べないから 他のモノをのせて

くれ!と言った」

勝校長

「チーズはキライですか?」

冬葉博士

「イヤ!機内食の前に スチュワーズに 電話番号を聞いたが
教えてくれなかったので、ちょっとイヤがらせを…
そしてスチュワーズがチーズの代わりに
ハンバーグの上に何かをのせようとした、

その時!

飛行機が空中分解

して、

家に帰れなくなった 話は変わりますが
たのみたい事があります!」

勝校長

「何でしょうか?」

冬葉博士

「研究費を少し貸して 欲しいのですが?」

勝校長

「いくらですか?」

冬葉博士

「1000万萌円です!」

1000万萌円= 1000万円

勝校長

「2、3日考えさせて 下さい」

話も終わり冬葉博士は 帰ろうとしてドアを 開けた

冬葉博士

「あつー！言い忘れた事が1つありました！ あなたの居場所がわかる追跡装置と あなたの命を奪う 殺人装置をあなたの体に埋め込んでおきました！その装置を作動させる リモコンは私が持っています！」

次の日、萌江戸北町学校の教室で、

生徒たちと給食を食べる勝校長：

まみ

「校長先生は先月、地震で被災した萌愛媛県に 義援金を送って、連休にボランティア活動に行ったんですね！

私、尊敬してます！」

勝校長

「私は、ちょっとやっているだけだよ。ところで、このクラスはどんな クラスなの？」

大学生

「はい！今回の 期末テストにおいて、 男子の数学のAベレージは他のクラスより 3・6点高く学年で1番でした

これは前期末テストに おいて数学が学年で2番だった事を受けて 担任の金・ニツク先生が数字の応用問題のレベルを 6から8に 上げ」

勝校長

「スープが冷める！」

ラブ

「幽霊船は本当に いるんですか？」

「土曜日に出る

勝校長

船の事ですか？」

ラブ

「土曜日に出るって

決まってるんですか？」

勝校長

「それは、うわさで…

クラスメイドルの

桜子君が早く退院できるといいですね！」

ラブ

「なぜ？

クラスメイドルの事を知ってるんですか

？」

勝校長

「それも、

うわさで…

萌江戸アマチュアバンドコンテストで優勝できるといいですね！

ラブ

「なぜ？

コンテストの出場の事を知ってるんですか？」

勝校長

「それも、うわさで…」

勝校長は冷めたスープを

ゴクツ！と飲みほした

第777回！

萌江戸アマチュアバンドコンテスト当日の

会場で…

主催者はコーヒー

シュガー社

猫多

「ドキドキして

眠くなってきた!」

まみ

「コンテスト終わって から寝ろ!」

魔心

「優勝しそうなバンドは演奏できねーように ちよっとイタくし
ておくか?」

L

「やめてよー!

そっいうの! 私たち出場できなくなるよ!」

K

「まみがいつしよだと
テンション!

サゲ サゲ
」

まみ

「こっちのセリフ!

L

「むめのバカがいると ヤダ!」
むめ

「L! 消えちゃえ!」

M

「もも! りゅう様が
ももはバンドに

必要ないって言うてる!
もも

「言っていないもん
りゅう様、ももに
優しいもん!」

K

「りゅう様は、みんなに優しいの！」

まみ

「あっ！アレ！桜子じゃない？」

むめ

「桜子は入院してるはずだよ！」

まみは桜子っぽい女子の所に行った

まみ

「桜子！いつ退院したの？」

桜子っぽい女子

「私はチェリーです！」

スーツの男

「ちょっと困ります！」

インタビューは事務所を通して下さい！」

まみ

「すいません！」

みんなの所に戻るまみ

まみ

「桜子じゃなかった！ チェリーちゃんだった！」

戸江萌

「そりゃそうだよ！桜子は入院してるんだもん！」

L

「でもチェリーちゃんって桜子にそっくり！」

猫多

「似てるけど、桜子よりパッチリ二重！」

K

「桜子がプチ整形？」

あんず

「似てるけど、桜子より鼻が高い！」

K

「桜子がプチ整形？」

もも

「似てるけど、桜子よりムネが大きい！」

K

「桜子がプチ整形？」

魔心

「それだけ整形やってるとプチって言わねーよ！」

司会者

「次のバンドは

C H E R R Y

(チェリー)

S O D A^{ソーダ}

です

!どうぞ!」

桜子に似ているチェリーがヴォーカルのバンドの演奏が始まった

大学生

「スゴい!プロみたい！」

戸江萌

「あのギター！」

プロが使ってるやつだよ!高いよ!」

まみ

「そう言えばチェリー

ちゃんの所に

言った時、スーツの

男の人が事務所とか

言ってた!」

あんず

「プロなのかな？」

むめ

「でも、このコンテストはプロは出場できないはずよ!」

戸江萌

「チェリーソーダが優勝だな!」

魔心

「勝負は、やってみねーとわかんねーよ!」

ラブ

「そうだよ!

いっぱい練習したん

だもん!ガンバレ

! クラスメイトール」

あんず

「わあー!次だよ!」

司会者

「次のバンドは

クラスメイトールです!どうぞ!」

ステージに登場した

クラスメイトール

ヴォーカル…ラブ

あんず

ドラム…戸江萌

ギター…龍

ベース…竜

キーボード…りゅう

コーラス…まみ、むめ、もも

ダンサー…K、L、M

ダンサー…猫多、魔心、大学生

クラスメイトールの

メンバー全員で作った曲を歌い演奏し始める

曲名

「たかが家族！

されど家族！」

ドレミ！ドレミ！

ドレミファ！ファミリィ！

ファミリィは

うらぎらない！

明るい家族！

楽しい家族！

しあわせ家族！

GO！GO！GO！

たかが家族！

されど家族！

ペットのネズミより

チューがうまい中2の妹

今の子はみんなうまい！

ペットのタヌキより

タヌキ寝入りがうまい父

こずかいは母さんに

もらえ！

ペットのクジラが潜る

海の深さより深い母の愛

いけど！

朝めしは作らな

家族会議で決定！

家族旅行で撮影！

家族写真を現像！

俺だけ目を閉じてる！

目を閉じれば思い出す！

家族の笑顔！

ペットのトカゲの
しっぽよりキレる兄

すぐキレる！

ペットのゾウの角質より確執がある嫁と姑

あなたのミソ汁

しょっぱいわ！

ペットのカメより長生き

おじいちゃん

今年で111歳！

年上の彼女募集中！

何も見なくても！

何も聞かなくても！

何も言わなくても！

わかりあえる！

信じあえる！

助けあえる！

それが家族！

だから家族！

A B C ! A B C !

A B C D ! D N A !

D N A はうらぎらない！

明るい

家族！

楽しい家族！

しあわせ家族！

G O ! G O ! G O !

たかが家族！

されど家族！

やがて、

クラスメイドルの 歌と演奏が終わった ホッ！とする

クラスメイドル

やがて、

コンテストに出場した 108組のバンドの 歌と演奏が
すべて終わった

審査員が優勝バンドを

決定するために、
別室に移動する

15分後：

司会者

「おっ！とプチ情報が 入りました！優勝候補は7組に絞られた
そうです！

優勝したバンドは
萌江戸でCDデビュー
できます！」

ラブ

「ドキドキする」

魔心

「優勝は クラスメイドルです！

ラブ

「わぁー！びっくりさせないでよー！」

魔心

「メンゴ！メンゴ！いや！ゴメン！ゴメン！」

司会者

「優勝は…」

明日発表します！」

観客

「えっー！」

司会者

「アメリカン

ジョークです！」

K

「そういうの
いらなーい！」

司会者

「発表します！」

司会者

「優勝は…」

チエリーソーダ！」

観客

「おめでとう！」

拍手の嵐

戸江萌

「やっぱりな！」

K

「来年がんばろう！」

ラブ

「うん！」

観客

「コレ！アマチュアの

コンテストだろ？

チェリーソーダってプロじゃね？」

チェリーソーダは プロだと会場のア

チコチでざわつき始める！

観客たち

「やり直し！

もう1回！やり直し！

もう1回！」

会場が大騒ぎになり

審査員が集まり何か相談している

司会者

「優勝が

もう1組あります！

クラスメイドルです！

観客

「おめでとう！」

拍手の嵐

猫多

「終わった！

これで眠れる！」

某日、萌江戸北町学校の教室で…

K

「夏まつりの集合時間どうする？」

L

「6時？」

K

「OK！6時ね！」

戸江萌が来た

戸江萌

「集合時間は？」

K

「10時！」

戸江萌

「夏まつり

終わってね？」

同日：

赤ちゃんの誘拐に 関わったとして

捕らえられた古い帆船の乗組員たちは証拠不十分で釈放された

今も3人の赤ちゃんと サルが乗ったとみ

られる古い帆船は発見されて いない。それにサルと

サルを操っていると

みられる人間も捕まっていない

夏まつりの日、

萌江戸北町改本部道場で…

海雪の代わりに小雪を 夏まつりに連れて行く事になったラブ

海雪に、ゆかたに合う 髪型にセットしてもらっラブと小雪

海雪

「ラブちゃん悪いわね！男の子もいっしょ 为什么呢っ？」

ラブ

「まだ、そういうのいないから！」

夏まつり会場で…

ドン！ドン！ピーヒャラララ…

まつりばやしがまつりを盛り上げる

りんごアメを食っ戸江萌いきなりデザート

かよ！

ラブ

「りある君！」

りある

「よっ！」

ラブ

「あんずちゃん
見なかった？」

りある

「うん」

あんず

「りあるくん！

ラブ

「ラブ！無視された！」

あんず

「あつ！ゴメン！

りある君しか眼中に

なかったの！りある君 ゆかた似合うね！」

りある

「女子たちも

似合ってるよ！」

あんず

「何分待った？」

りある

「1時間」

あんず

「えっー！そんなに！」

りある

「オレ女子待たせねー

タイプ！」

ラブ

「えっ！2人デートなの？」

あんず

「うん！」

ラブ

「付き合ってたんだ？

2人？知らなかったー！

りある

「ちがーよ！

オレが用務員の仕事で、授業受けらんねー時、

あんずが何回も

ノート取ってくれて

世話になって、それで

デートの誘い

断れなかった！」

ラブ

「あつい！あつい！

お似合いのカップル！」

小雪

「あつい！あつい！

あんず

「うれしい！」

りある

「全然うれしくない！」

泣くマネをするあんず

ラブ

「あんずちゃん

泣いちゃった！

りある君どうするの！？

りある

「はい！はい！ボクも　うれしいです！」

たこ焼きを食う戸江萌

粉もんスキ！魚介類スキ！だから！

たこ焼き大スキ！

夏まつりは！まだ！まだ！続くよ！

射的で…

魔心

「あたったー！みんな！見たよな！早く景品くれー！」

店の人

「たなから落ちないと
ダメ！ダメ！」

魔心

「あんな重てーの
落ちねーよ！」

だんく

「どうしたの？」

だんく「身長２メートル９９センチ

５つ子の次男。バスケット部

魔心

「あの！金色のこけしのライター欲しいんだよ！あれでタバコに
火つけてんだよ！」

だんく

「渋すぎるぜ！魔心！」

魔心

「だんく！カネ払うから、アレ！落としてくれ！」

だんくにカネを払う 魔心

店の人

「あつー！お客さん！ 鉄砲で景品をつつつくのはダメ！ダメ！」

だんくは身長２メートル９９センチ

店の人がうるさいので、だんくは、つつつ
くのをやめ景品の０・０１ミリ 前から鉄砲を撃った

パンツ！コンツ！弾は

金色のこけしのライターにあたった。しかし、びくもしない

魔心

「やっぱ！重いわ！
だんく！ダメだったんだからカネ返してくれ！」

ダッシュで逃げるだんく

くじ引きで…

くじ引きの店にいろんな景品が並んでいる

大型テレビ、バイク

金色のこけしのライター

ラブのクラスの

5つ子登場！

ぱす

「やったー！！等賞だ！」

カラン！カラン！

店の人が鐘を鳴らす！

盛り上がる会場！

だんく

「大型テレビか？」

しゅうと

「バイクか？」

りんぐ

「金色のこけしのライターか？」

「こおる

「ドキドキするぜ！」

店の人

「1等賞！」

おめでとう！」

ぱすに景品を渡す店の人
ぱす

「1等賞が

ティッシュ1箱かよ！」

くじ引きの店から、
いる

ちょっと離れた所で

人ばかりができて

サルまわしだ

サルが竹馬に乗り走り

まわっている

楽しそうな見物客たち

突然！サルが竹馬から 飛び降り、サルま
わしの耳に口を近づけ、 ナイショ話をするマネをする

サルまわしの正巳 「何？何？拍手が
足りない？みなさん！ 拍手をお願いします！」

笑いながら拍手する

見物客たち

竹馬で走りまわるサル

突然！また、サルが 竹馬から飛び降り

サルまわしの耳に口を 近づけ、ナイショ話を するマネを
する

正巳

「何？何？ヒザに爆弾を抱えているので、もう！竹馬には乗れない
？！ スポーツ選手かよ！」

焼きそばを食う戸江萌

めん類も大スキ！

香ばしい！ソースの香り

金魚すくいで…

桜子

「ラン君、金魚すくい初めてよね？」

ラン・ホーム

「オー！ イエス！
ラッコサン！」

ラン・ホーム

交換留学生で野球部の 助っ人外国人
桜子

「私の名前はさくらこ！ラッコはやめてよ！
それと読者が読みづらいからカタカナやめてね！

ラン・ホーム

「オー！ イエス！
ワカリマシタ！

桜子

「今！注意した！
ばっかだよ！
まず、大君が見本を
見せるからラン君よく
見てね！」

大学生

「えーと、数式に

あてはめると金魚が X 、ポイが Y 、水面が Z 、
そうしたら放物線を描くように…」

桜子

「大君！ポイに

大きい穴が開いてるけど！」

大学生

「これはですね…つまり X が Y と等しい角度の時…いや Z の数値が
…」

桜子

「やめろー！」

ラン・ホームが手で金魚をすくっている！

桜子

「やめろー！」

そこへラブたちが来た

小雪

「ラブおねえちゃん！ 金魚すくいやりたいな！」

ラブ

「うん！やろうね！」

小雪

「どうやるの？」

大学生

「ボクが見本を

見せあげるよ！えーと！金魚が X 、ポイが Y 、
それから…」

「やめろー!」

桜子

猫多が来た

桜子

「猫多君!小雪ちゃんに金魚すくいの見本見せてあげてよ!」

猫多

「うん!いいよ!でも その前に眠くて
集中できないから家で 寝てきていい?」

桜子

「ここで寝ろ!」

あんず

「あんずがやってみる!」

猫多

「ちよつと待った!猫多の名にかけて魚関係は
ゆずれない!」

桜子

「眠かったんじゃないの?」

猫多

「起きる!あんずちゃん!勝負だ!」

猫多VSあんず

桜子

「金魚すくい対決!
よーい!スタート!」

猫多はすばやい反射神経で次々と金魚をすくっていく

猫より睡眠時間が多い男だからできる技だ！

あんずも猫多と同じ　　くらいのスピードだ！

あんず！おまえも猫より睡眠時間が多いのか？

チラッ！とあんずを見る　猫多

そして獣が覚醒したかのような身のこなしで

次々と金魚を

すくっていく

速い！速い！

ラン・ホーム

「オー！

ファンタスティック！　スシ！サムライ！

チョンマゲ！

フクロトジ！」

チラッ！と猫多を見る　あんず

あんず

「速けりやいいっ

て　もんじゃないのよー！　その証拠にホラッ！　猫多君のポ
イに穴が

開いてきた！

アレじゃー！

もう終わりよ！

アッ！ハッ！ハッ！」

高笑いするあんず

あんず

「ソレ！ソレ！」

次々と金魚をすくい自分に酔っているあんず

小雪

「あんずおねえちゃん どうしたの？」

ラブ

「小雪ちゃん！」

あんずちゃんと目を

合わせちゃダメ！」

猫多のポイは大きい穴が開いて終了
あんず

「猫多君！何匹？」

猫多

「16匹！」

あんず

「あーあつ！」

あんず15匹！」

桜子

「猫多君の勝ち！」

小雪

「あーあつ！」

あんずおねえちゃん

負けちゃった！くやしい！」

ラブ

「あんずちゃん！」

スゴい！1匹の差
だもん引き分けと
いっしょだよ！」

あんず

「ラブちゃん、

なぐさめてくれて ありがとう。 だけど勝負の世界では負けは
死を 意味するのよ！ 特にプロの世界では！」

あんずちゃん家庭で何かあったの？
っていつかあんずちゃん金魚すくいのプロなの？

再び金魚をすくい始めるあんず。 まだポイは
やぶれていなかった！

あんず

「猫多君は16匹だったよね？はい！16匹目！すくった！
これで引き分け！
アッ！ハッ！ハッ！」

高笑いするあんず

ラブ

「小雪ちゃん！
あんずちゃんと目を 合わせちゃダメ！」

あんず

「上には上がいるって事！猫多の脳裏に
焼き付けてやる！」

ラブ

「あんずちゃん…」

あんず

「次！17匹目！はい！すくった！これであんずの勝ちね！」

ラン・ホーム 「アンビリーバボ

ー！ スシ！ミソスープ！ トノサマ！フクロトジ！

あんず

「最初から結果が
わかってる勝負ほど 退屈なモノはないわ！ 死にたくなる！」

猫多

「負けた！」

小雪

「やったー！あんず

おねえちゃんが勝ったー！」

桜子

「ラン君！金魚すくいのやり方わかったでしょう？やってみる？」

ラン・ホーム

「オー！ イエス！

金魚すくい楽しいです！友だち連れて来て
いいですか？」

桜子

「いいけど、友だち
どこにいるの？」

ラン・ホーム

「アメリカです！」

桜子

「夏まつり終わるわ！」

金魚すくいの店から ちよつと離れた所で…

人だかりができている

へびつかいだ

ピーー！ヒャラ！

ラ！ラ！ラ！

ふえの音に合わせてカゴの中からへびが出て来た

ピーー！んと棒のように立ち前後、左右に頭と体を動かしている

へびつかいのサルージャ

「このへびには猛毒があります！かみつかれるとゾウでも3秒で死にます！」

サルージャが手や顔をへびに近づけては、

かみつかる寸前で　　かわす！

小雪

「キヤー！危ない！」

サルージャ

「猛毒のへびでも、

かみつかなければ

いいのです！」

見物客が拍手して

盛り上がる

りある

「あれだけ？おもしろくねーなあ！」

猛毒のへびの動きが

激しくなった！

サルージャ

「ギヤー！」

猛毒のへびがサルージャのノドにかみついた

小雪

「キヤー！」

猛毒のへビは、

かみついて離れない！

地面をころげまわ

る サルージャ

15秒後、パタッ！と 動きが止まるサル

ージャ

静かになる見物客たち

りある

「おい！」

だいじょうぶか！？」

サルージャは、ぐったりして反応がない！

りある

「おい！おい！」

ピクリともしない

サルージャ！

小雪

「わあー！死んじやったよー！」

そりゃそうだよ！

かみつかれたらゾウでも3秒で死ぬ猛毒の

へビ だもん！

30秒後
：

サルージャ：

「ハイ！だいじょうぶ！」

りある

「ハイ！」

だいじょうぶ！

じゃねーよ！テメー！

かみつかれるとゾウでも3秒で死ぬんだろ！

あのへび!？」

サルージャ
ません

「ウソです!あのへびにはキバと毒があり

りある

「びっくり!させんなよ!」

サルージャ

「こうでもしないと、
おもしろくないと言う
お客様がいますので!」

焼きとうもろこしを

食っている戸江萌

畑系も忘れずに!

香ばしい!

しょうゆの香り!

セクシー系3人組!

K、L、M、登場!

K

「イケメン

いないかなあー?」

L

「あれっ!」

M

「きゃー!3Dよ!」

3Dを追う3人

癒し系3人組！

まみ、むめ、もも登場！

まみ

「キヤー！3Dよ！

前から来る3Dを

発見した癒し系3人組！

シマウマを見つけた　ライオンのように

前から、うしろから3Dに　急接近する女子6人！

各自、大スキな男子の

うでにつかまる

K

「まみ！龍様イヤ

がつてる！手！

離しなさいよ！」

まみ

「イヤがつてないもん！」

L

「むめ！どっか

行っちゃえ！」

むめ

「Lが行けば！」

M

「もも！りゅう様が

消えろって言ってる！」

もも

「そんな事言つて

ないもん！りゅう様ももに優しいもん！」

K

「りゅう様はみんなに

優しいの！」

まみ

「あれっ！見て！

ドMよ！」

いる

戸江萌も2人の女子に　うでをつかまれて

「萌江戸の七不思議の 1 コ目ね！」

むめ

まみ

「2 コ目は？」

むめ「あとで教える！」

もも「あの子たち知ってる！モデルやって

るよ！」

戸江萌「どうもー！」

K「ドM って以外と モテるんだね！」

まみ「知らなかった！」

L「ドM を少し見なおした！L のバカ！」

むめ「ドM がちよつと、かつこよく見えて

きた！むめのバカ！」

戸江萌

「やっぱ！最後！
男はココでしょう」と

ムネをポンツ！と叩く！

M

「カルビ？」

戸江萌

「ちがう！」

もも

「大トロ？」

戸江萌

「ちがう！やっぱ！最後！男はハートでしょう！あーあつ！はらへ
った！何か食べるか？」

モデルコ

「おにいちゃん！
食べすぎだぞ！」

モデルミ

「メタボツちゃうぞ！」

「おにいちゃん？」

K

L

「あなたたちDMの
モデルコ

妹さん？」

「はい！1つ下の双子の妹です！」

まみ

「DMにこんな
も！」

カワイイ妹さんがいる とは！しかも2人

むめ

「それが萌江戸の

七不思議の2「目！」

もも

「DMに彼女なんて
おかしいと思った！」

K

「まみ！あなたたちが いるとイラッ！として ム力つくの！3本
勝負 して勝ったチームが3Dといっしょに いられるっ
てのどう？」まみ
「望むところよ！」

勝負！1本目！

ヨーヨーっり！

M対もも！

M

「M、ヨーヨーつり、初めてなんです！」
りゆう

「水にぬれると、
糸が切れちゃうから
水面の近くのゴムの輪を
狙ってね！」

M

「はい！…やったー！」

M、1コつれた
ももは1コもつれない

セクシー系チーム1勝！

勝負！2本目！

射的！

！対むめ！

むめ

「むめ、射的初めて
なんです！」

竜

「軽い景品を狙えば
落ちるよ！」

むめ

「はい！」

パンツ！コンッ！

鉄砲の弾が景品にあたり、たなから落ちた！
むめは景品1コ獲得して終了
プレッシャーがかかる！

「助っ人！ danku 君！」

L

鉄砲で景品をつつつく danku！身長2メ

ートル99センチ！

むめ

「ずるーい！自分で

やってよ！」

L

「いいーじゃない！

野球だって助っ人外国人とかいるし！ネー

！」

ラン・ホーム

「ネー！」

むめ

助っ人はダメ！

danku 君は

「ネー！じゃねーよ！

引っ込んでてよ！

コレは女子の戦い

なんだから！」

L

「もう、助っ人の

バイト代、払っちゃたし！」

むめ

「danku 君！

バイト代返しなさいよ！

L

「わかったわよ！

danku 君、

助っ人やらなくていいよ！バイト代返して！」

ダッシュで逃げる

danku！

自分で射的をやるL

Lは景品を1コも

獲得できなかった

癒し系チーム1勝！

現在、両チーム1勝1敗

次の勝負で勝ったチームが3Dといっしょに
いられる

勝負！3本目！

金魚すくい！

K対まみ

K

「K、金魚すくい
初めてなんです！」

龍

「水をすくわないで、
そーとね！」

K

「はい！…やったー！」

1匹すくえたK

まみ

「全然ダメ！金魚！
自分から器に入れ！」

Kは1匹すくって終了

まみ

「むめ！もも！このままじゃ負けちゃう！」

泣きそうな、まみ

むめ

「まみ！助っ人、
連れて来たわ！」

店の人

「あつ！女子プロ」

あんず

「全部すくってやる」

ラブ

「小雪ちゃん！

あんずちゃんと目を

合わせちゃダメ」

Ｌ

「むめ！さっき助っ人はダメ！って言ったわよね？」

むめ

「言ってませーん！」

Ｌ

「じゃあ！射的の

シーンに戻ってみる！」

むめ

「はい！はい！

言いました！あんず！

助っ人ダメだって！

バイト代返して！」

ダッシュで逃げるあんず

まみが1匹すくえば

引き分けだ

まみ

「あつ！穴が開いてきた最後のチャンス！

やるしかないわ！」

1匹の金魚に狙いを

つけるまみ

まみ

「あつ！」

ポイの上で金魚がはねた

水面に向かって落ちていく金魚！

まみ

「負けちゃった！ 悲しい！3Dとデート できない！」

龍

「セーフ！」

龍が落ちてきた金魚を

器で受け取った！

これで両チーム金魚を 1匹づつすくえ引き分け

3本勝負の結果は

両チーム

1勝1敗1引き分けて
引き分けた！

K

「龍様が金魚すくい
少し手伝っちゃたけど？」

龍

「女の子だから少し、
おまけしてあげて 下さいね！
そろそろ花火が始
まり ますよ！みんないつしよに見ましようね！」

K

「そついうとコスキ！」

夏まつりの次の日
萌江戸北町改本部道場で

海雪

「ラブちゃん！ きのうは小雪がお世話になりました！
コレはお礼よ！」 かんざしをラブに

プレゼントする海雪

ラブ

「わあー！キレイ！ ありがとうございます！大切にします！」

同日の午後、同所で…

剣のけいこをする改たち

火ろ志

「うつ！ゴホッ！ゴホッ！」
急に激しく咳込み
血を吐き倒れる火ろ志

アルコ

「頭！しっかりして
下さい！」

応急処置をするアルコ

病院で…

オペスキー医師
「奥さんだけに、
お話ししますが、

血を吐いたこの病気は
一生治らない…3ヶ月の…」

あゆめ

「えっ!」

火ろ志はオペスキー医師の話を聞いてしまった
薬のせいか、
スグに
眠りに落ちる火ろ志

1時間後…

ラブ

「父上!」

泣くラブ

火ろ志

「母さんとラブを
もつと遊びに連れて
行けばよかったな!」

ラブ

「ラブは道場で
いっぱい遊んでもらったから気にしないで
ね!」

火ろ志

「私はもうダメかもな?」

ラブ

「ラブは学校やめて
働きます!」

野獣のように強い父が 弱々しくベットに

横たわっているのを見た瞬間、

女子とか学生とか

猫舌とかの、両親に 甘えるためのいいわけは全部ふつとんだ！

ふとんがふつとんだ！ みたいに！

火ろ志

「ラブは何も心配しないで学校へ行きなさい」

ラブ

「だけど…」

あゆめ

「お父さんの
言う通りよ！」

ラブ

「はい！

わかりました！」

次の日、萌江戸北町学校の教室で…

ラブ

「あの…話しにくいんだけど…」

あんず

「友だちでしょう！何でも話してよ！」

ラブ

「あの…お金貸して

あんず

「朝から重いよ！

ラブ

「じゃあ保証人に

なつて！」

あんず

「もつと重いよ！」

ラブ

「じゃあ、実印貸して！」

あんず

「実印はまだ

作ってないよ」

ラブ

「いい象牙が入荷した ハンコ店、ラブ知ってる！そこで実印作つてよ！あんずちゃん！」

あんず

「ムリだよー！」

実印を他人に貸したら 生き地獄だよ！
お金いくら必要なの？」

ラブ

「あんずちゃんが貸せるだけお願いします！」

あんず

「今月、あんずも
苦しいんだ」

ラブ

「そっか」

あんず

「アルバイトは？」

ラブ

「ラブ

不器用だから…」

次の日、萌江戸北町学校の教室で…

あんず

「ラブちゃん！

いいアルバイトあるよ！面接行ってみる？」

ラブ

「行ってみようかな？」

あんず

「コレ！地図！

がんばってね！」

ラブ

「ありがとう！」

クラスメイドール萌江戸北町店で…

ラブ

「ココだ！ドキドキする！」

がんばれ！ラブ！

ラブ

「失礼します！

面接をお願いした

ラブです！」

オーナー

「どうぞ！」

ラブ

「はい！失礼します！」

オーナー

「アルバイトは初めてですか？」

ラブ

「はい！初めてです！」

オーナー

「おこずかい足りないんですか？」

ラブ

「はい！」

オーナー

「いつから働けますか？」

ラブ

「今日から働けます！」

オーナー

「採用します！」

ラブ

「ありがとうございます！」

オーナー

「まず、研修をします！このお店の制服に着替えて下さい！」

10分後：

オーナー

「研修を

始めます。ラブさんは お客様の役をして下さい一度、お店の外へ出て、再び入って来て下さい」

ラブ

「はい！」

店から出て再び
店に入るラブ

店員

「お帰りなさいませ！
お嬢様！」

ラブ

「あっ！」

あんず

「ラブちゃん！
採用おめでとう！」

あんずは、

この店の
カリスマ店員だった！

オーナー

「自分のおこずかいの
ためじゃなかったのね！お父さんの入院費のためだったのね！
この子ったらウソついて！あんずちゃんから

聞いわ！お父さんが早く退院できるといいわね！

ラブ

「オーナー！

ありがとうございます！あんずちゃん！

ありがとう！」

あんず

「友だちだもん、

あたりまえだよ！」

ラブ

「ずっと友だちでいてね！」

あんず

「うん！ずっと！」

本物のお客様

「コーヒーひとつ

！」

ラブ

「かしこまりました！

ご主人様！」

あんず

「ラブちゃん！まだ研修終わってないぞ！」

ラブがアルバイトを 始めて1週間たった日

ラブの自宅で…

今日、退院した火ろ志

火ろ志

「まだ、死ねない！ラブの結婚式に出席して孫とキャッチボールして孫の結婚式に出席してそれから…」

あゆめ

「あなた何歳まで生きるのよ？」

火ろ志

「八宝菜！」

あゆめ

「今日はお父さんの退院祝いに外へ食べに行きましょう！」

ラブ

「やったー！」

火ろ志

「ラブ！何が食べたい？」

ラブ

「八宝菜！」

ワッ！ハッ！ハッ！と

大笑いする3人

大洗の町じゃないのに…

茨城県の人にはうけるんですけど…

次の日、萌江戸

北町改本部で…

萌江戸でサルが3日連続、1日に1人づつ

赤ちゃんを誘拐し

た事件は、今も未解決だ！

サルが

乗ったとみられる

古い帆船と3人の

赤ちゃんは発見されて

いない

それに

事件を起こしたサルと　サルを操っていると
まっっていない

みられる人間も捕

この事件の捜査を続ける火ろ志たち

火ろ志

「江戸時代の犯罪組織の

「冷蛇」は赤ちゃんを

サルに誘拐させて売ってたんだよな？」

日田

「はい！」

火ろ志

「冷蛇は江戸時代に
滅びたはずだ！」

日田

「復活したんでしょうか？」

火ろ志

「冷蛇は海賊、
サルまわし、へびつかいもやってたんだよな？」

日田

「はい！」

火ろ志

「アルコ・ジーマ！サルまわしを捜査してくれ！

アルコ・ジーマ

「了解！」

火ろ志

「シュー！由自！

へびつかいを捜査してくれ！」

シュー・由自

「了解！」

同日、サルまわしの家で…

夏まつりに来ていた　サルまわしの男の家だ！

男の名前は正巳

(まさみ)

巳〓み〓へび〓冷蛇？

サルといっしょの正巳

冷蛇は犯罪に

サルを使う！怪しいぞ！

アルコ

「サルの事件の事で少しお聞きしたいのですが？

正巳

「どうぞ！」

家の中に入るアルコと　ジーマ

正巳

「私はただのサル

まわしです！」

体長3メートルのサルが正巳の首をギュー

！と　しめている！

冷蛇王のたたり？

正巳　「私は…グエー！」

口から血を流し

青い顔の正巳

体長3メートルの

サルは、もつとギュー！とした

首がガクツ！して

意識不明なる正巳

何もできなかったアルコとジーマ

同日、同時刻、 へびつかいの家で…

夏まつり来ていた へびつかいの男の家だ
男の名前はサルージャ

へびつかいの
へび〓冷蛇？

冷蛇はサルを犯罪に使う！
サルとサルージャ！
怪しいぞ！

シュー

「サルの事件の事で少しお聞ききたいのですが？」
サルージャ

「どうぞ！」

家の中に入る

シューと 由自

サルージャ
「私はただのへびつかいです！」

体長10メートルのへびがサルージャの体
に 巻きついてギュー！と しめている

冷蛇王のたたり？

サルージャ
「私は…グエー！」 口から血を流し

青い顔のサルージャ！

体長10メートルのへびは、もっとギュー
！とした

首がガクツ！として 意識不明になる

サルージャ

何もできなかった

シューと由自

次の日、萌江戸北町の コンビニで…

サブが勤務中にベンチでタバコ吸って、コーヒー飲んで、マンガ本
を読んでいる

ラブ

「あっー！サブさんが
思いつきりサボってる！本部応答せよ！」

サブ

「わあー！ちよつと
待った！アイスおこる！家まで送る！」

ラブ

「許す！」

サブの車に乗るラブ

ラブ

「サブさーん！
ちゃんと仕事してよ！ 副頭なんだから！」

^{ふくかしら}
副頭〃 副隊長

サブ

「はい！はい！
ラブお嬢様！」

かんざしをサブの

髪に さすラブ

ラブ

「キャ！ハッ！ハッ！
つけるんですけど！」

サブ

「はい！はい！
うけます！うけます！」

火ろ志

「強盗事件発生！犯人は黒のスポーツカーで
萌江道3号線南下中！」

アルコ

「萌江道3号線北上中！犯人をはさみます！」

信号無視をして逃げる 犯人！

横断歩道に

高校生のカップル！ あぶない！

火ろ志

「右折した！萌江道

17号線を西へ
向かってる！」

犯人

「こっちはプロですよー！」

窓から手を振りスピードを上げる犯人！

ジーマ

「萌江道17号線を東へ向かい犯人をはさみます！」

火ろ志

「アルコは6号線！

サブは7号線で
待機しろ！」

サブ、アルコ

「了解！」

犯人

「早く捕まえてー！」

窓から足を出す犯人！

火ろ志

「一般車両と事故になる前に何とかしなくては！あっ！見失った！」

犯人

「あれっ？もう終わり？つまんねー！」

サブ

「犯人発見！7号線を
南下中！」

一般車両とぶつかりそうになる犯人！

スピードを上げる犯人！横断歩道に

中学生のカップル！

あぶない！

犯人

「がんばれ！がんばれ！改さん！」

窓からおしりを出している

ラブ

「サブさんは何座ですか？」

サブ

「ピョン！ピョン！」

ウサギさん！かわいい だろ？」

ラブ

「それは十二支！」

おとめ座とか…」

サブ

「あっ！そっち！

12月8日生まれの

いて座！」

サブの読んでいた

マンガ本の占いコ

ーナーを見るラブ

ラブ

「えーと！いて座の今日のラッキーアイテムは、

じゃがいもです！

サブ

「じゃがいもを薄くスライスして油でカラッ！と揚げたの食って
くれば良かったな！」

ラブ

「ポテトチップスって
言った方が早くね？」

犯人がサブの車に何か 投げた！

サブ

「くっ！危ねー！

フロントガラスに

あたったら割れるぞ！」

犯人との距離

200メートル

火ろ志

「アルコ！13号線で
待機しろ！」

アルコ

「了解！」

信号無視をしてスピードを上げる犯人！

横断歩道に

小学生のカップル！

あぶない！

犯人

「しつこい犬だ！

エサが欲しいか？」

の車に何か投げた

犯人がまた、サブ

犯人

「それっ！にんじん！

たまねぎ！野菜不足は

ダメ！ダメ！」

サブ

「わぁー！危ねー！

ラブ

「にんじんです！

たまねぎです！」

サブ

「カレー作れってか？」

犯人

「そろそろ、トドメを

さしますか？」

犯人

「賛成！」

犯人

「賛成！」

犯人

「多数決なのでトドメをさしまーす！多数決って言ったけど

車にはオレ1人しか 乗ってませーん！」

ラブ

「カレーの材料で
にんじん！たまねぎ！と
きたら、あとはやっぱり
？」

サブ

「じゃがいも？」

犯人

「ジャーン！」

とどめだ！スキ、キライはダメ！ダメ！」

犯人がまた、サブの車に何か投げた
サブ

「わあー！」

ラブ

「キヤー！」

ゴンツ！ボコツ！

プシュー！プシュー！

サブの車にじゃがいもとクギがあたった！

サブ

サブの車はパンクした！

「犯人は7号線を

南下中！サブ！パンクでリタイヤです！」

ラブ

「普通、ラッキー

アイテムにやられる？ じゃがいも食べてから 犯人追えば、捕ま
ったかも？」

サブ

「そうかもな？」

じゃがいもをつぶして
ひき肉とか混ぜて
パン粉を付けて油で
揚げたモノを途中で
食えば良かったな！」

ラブ

「コロツケって言った方が早くね？」

サブ

「ラブ！じゃがいもは、やっぱり
ラッキーアイテムだったな？」

ラブ

「犯人は捕まりませんでしたよ！」

サブ

「ラッキーアイテム
だったよ！」

犯人にとつて！」

犯人の車は夜の町に
消えた…

某日、萌江戸北町の銭湯で…

今、ラブのクラスの　ブームは銭湯だ！

まみ

「あっ！むめ！」

バスト少し大きくなったでしょう？」

「わかる！」

むめ

もも

「ももも早く大きくならないかなー！」

K

「もも、小さーい！
かわいそう！」

まみ

「ソレツ！女の子が1番キズつくの！」
L

「だって！本当に
小さいんだもん！」

泣くもも

むめ

「小さい！小さい！
言っちゃダメ！」

まみ

「もも！泣かないで！
こんな子たちに
負けないで！」

M ファッション誌の表紙になったんだから！

「私たち

先月やりました！」

むめ

「私たちのDVD 出ます！」

K

「そんな子供だまし！

私たち、袋とじに

なりまーす！はい！

私たちの勝ち！」

むめ

「ねえー！男子！
私たちがいいよね？」

壁の向こうの男子更衣室の男子に問いかける

戸江萌

「うーん！迷うな！」

むめ

「ドMには聞いて
ませーん！」

L

「男子って言っても
イケメン限定なの！」

K

「ドMは、まわしつけて、しこふんで塩まいて、
ちゃんこ作ってればいいの！」

体を洗う女子たち

むめ

「あっ！シャンプー
終わっちゃったー！」

L

「はい！使って！」

むめ

「でも！むめは
ライバルでしょう？」

L

「そりゃそうだけど、

髪は女子の命だぞ！ 戦いは一時おあずけ！ 遠慮しないで使
て！」

「ありがとう！」

むめ

仲良く髪を乾かす

しとむめ…

今まで何度も、もめて きたセクシー系と癒し系がやっと、わかり
あえた…

むめ「あっー！さっぱりした！シャンプー ありがとうね！」

し「はい！500萌円 いただきまーす！」
500萌円＝500円

むめ

「えっー！しが使ってて言ったじゃない！」

し

「タダって言うて ませーん！」

むめ

「中学生かよ！」

体を洗う男子たち…

戸江萌

「おーい！女子！ せっけん貸してー！」

男湯から声がした！

K

「ドMに貸すせっけんはない！」

まみ

むめ

「ない！
ない！」

もも

「ない！」

龍

「おい！女子！
せつけん貸してあげて
下さーい！」

K

「あつ！龍様来てる！」

竜

「お願いしまーす！」

L

「あつ！竜様も来てる！
りゅう

「すぐ！返しますから！」

M

「あつ！りゅう様も
来てる！」

まみ

「きゃー！3Dよ！」

K

「Kのせつけん！
使ってー！」

せつけんを男湯に投げた！

戸江萌

「どうも！」

3D

「ありがとう！」

まみ

「Kだけズル―い！まみのも使って―！」

L

「Lのも使って―！」

むめ

「むめのも使って―！」

もも

「もものも使って―！」

中年の女性

「そんな小娘のせっけんより大人の女のせっけん使って―！」

M

「おばさん！だれ？」

中年の女性

「戸江萌の母です！」

男湯で…

龍

「せっけんを借りられ

ました！みなさん！

いっしょに

体洗いましょう！」

10数人が輪になり

前の人の背中をゴ

シツ！ゴシツ！と洗った

そして、180度向きを変え、また前の人の背中を洗った

知らない男の背中を
洗っていた猫多

猫多

「おじさん！だれ？」

男

「戸江萌の父です！」

サブがラブを車に乗せ 強盗犯を追った日から
1週間後、北町改本部で…

火ろ志

「おかしいなー！ ここ1週間、車を使った犯罪が増えている
そのうえ逃走する車を 捕まえられない！今までこんな事なかった
よな？」

サブ

「はい！スルスルと こっちの動きがわかる ように逃げている
す！」

火ろ志

「動きがわかる？スパイか？」

サブ

「スパイと言えば盗聴機ですね？」

盗聴機を捜すプロが来た

可部^{かへ}

「最近是谁でも安く買えますからねー！
私も彼女の部屋…」

ピッ！ピッ！ピッ！

盗聴機発見機が反応する

「近いですね!」

可部

ピイ !!!

盗聴機発見機がスゴく 反応した!

可部

「ありました!ココです!」

なんと!サブのズボンのポケットだ!

それと同時にベイ、由自

ジーマの3人が刀を抜き

サブを囲んだ

由自

「両手上げる!

足広げる!動くな!」

刀でサブの首と心臓を 狙っている!

由自

「うらぎったな?

カネか?」

サブ

「ちょっと待った!何かのまちがいだ!」

ジーマ

「これですね!」

サブのズボンのポケットから、かんざしを 取り出しみんなに見せる

可部

「まあ!ほとんどの

モノに仕込めますからね!私も彼女の部屋…」

サブ

「あっ！それは

ラブちゃんのかんざしだ！じゃがいもで車を　ボコッ！ボコッ！
に　された日にラブちゃんが車に忘れて行ったんだよ！」

ジーマ

「サブさんのあわてぶりからするとウソをついていますね！」

ベイ

「コーヒーをおごって

くれたのも私を手なずけるためだったんですね！」

サブ

「ラブちゃんに電話して聞いてくれ！」

ジーマ

「ラブちゃんがスパイ
とは！カワイイ顔して
最近の子は怖いねー！」

火ろ志

「誰が怖いって？」

ジーマ

「イヤ！カワイイ娘さんです！」

火ろ志

「たぶん、この会話も
聞かれている！」

ラブを確保しろ！

学校へ急げ！」

30分後、

萌江戸北町学校で…

冬葉教頭

「業務連絡！」

用務員のりある君！ 大至急、校長室に来て 下さい！」

冬葉教頭「冬葉博士

りある

「何だ？ネコが

池のコイを狙っているのか？

あんず！ノートたのむ！

あんず

「了解！」

校長室で…

勝校長

「りある君！校門に女子をいやらしい目で

見ているストーカーが

いるので泣かして下さい！」

校門で…

りある

「いた！いた！校長の

言う通り、いやらしい目をしてるぜ！」

ベイ

「あれっ？ラブちゃんは？」

りある

「ご指名かよ！ずうずうしいストーカーだ！
給料分、働くぞ！」

うで！あし！はら！
へそ！おしり！」

ベイ
「ギャー！」

由自
「ブヒッー！」
「ギエッー！」

アルコ

改本部に連絡するベイ

ベイ
「頭！道場破りの
サングラスの男が学校で用心棒やっています！ 大至急！応援お願
い します！」

校長室に電話がかかってきた

火ろ志
「校長！ラブを改に渡して下さい！盗聴容疑が
あります！これは萌江戸の治安に関わる重大問題です！」

勝校長
「断ります！」

火ろ志
「ラブは私の娘だ！何の問題もない！」
勝校長

「正式な手続きをして

下さい！」

火ろ志

「私が責任をとるから
だいじょうぶだ！」

勝校長

「法律に基づいた書類はあるのですか？」

火ろ志

「かつちゃん、たのむよー！」

勝校長「いくらヒツピーのたのみでもダメ

だよー！容疑者とか変なうわさが広がって学校の
イメージが
悪くなるよー！」

火ろ志「じゃあ！他人の畑に侵入してお金
払わないで、甘ー

い！ イチゴ狩りしたの
生徒とPTAに話す！」

勝校長「かんべんしてよー！私は教育者だ

よ！ それに、それは子供の頃の話だよ！ヒツピー
だって、冷

たーい！くじ付き

アイスの棒を引っ抜いて当たりはずれを
見てたじゃないか！娘と部下に話す！」

火ろ志

「かんべんしてよー！私は法の番人の
改だよ！それに、それは
子供の頃の話だよ！」

勝校長

「引き分けだな？」

火ろ志

「そうだな！」

ワッ！ハッ！ハッ！と 大笑いする2人

火ろ志「かつちゃんが 元気だったんで、オレはうれしいよ！」

勝校長「オレもヒッピーが元気なんでうれしいよ！ヒッピーが改になっていてビックリしたよ！」

火ろ志「オレだって、かつちゃんがラブが 通ってる学校の校長で ビックリしたよ！学校を卒業してから一度も 会ってないからなー！」

勝校長「そうか？オレは一度、海で会ったような…」

火ろ志「そうか？まあー！いいや！お互い元気 なんだから！昔はよく いっしょに遊んだよなー！」

勝校長「ビンボーで川で遊ぶしかなかったなー！」

火ろ志「そう！そう！川ばかり！魚つったり泳いだり！」

校長「お金は、なかったけど楽しかったな

ー！

ヒッピー！ラブ君を 連れて行ってもいいよ！

ただし、穏便にたのむ！」

校内放送…

冬葉教頭「ラブさん！

落とし物が届いています！校長室に取りに来て 下さい！」

ラブ「失礼します！あつ！父上！」

火ろ志「ラブ！逃げな かったのか？」

ラブ「何の事ですか？」

火ろ志

「盗聴機で私たちの会話を聞いていたんじゃないのか？」

ラブ

「盗聴機ってなんですか？」

火ろ志

「サブが持っていた、かんざし型の盗聴機だ！

ラブ

「あっー！あれは

海雪ねえさんから もらいました」

火ろ志

「お手伝いさんの海雪さんか？」

ラブ

「はい！」

北町改本部に電話する

火ろ志

火ろ志

「盗聴容疑で海雪さんの身柄確保しろ！」

日田

「了解！」

北町改本部に連行される

ラブ…

30分後、北町改本部で…

日田

「頭！海雪さんが
行方不明です！」

火ろ志

「緊急配備しろ！」

留置場で…

サブのとなりの部屋に 入れられるラブ

ラブ

「サブさん！

ごめんなさい！

かんざしが盗聴機つて
知らなかったの！」

サブ

「もう気にするな！

それより、あのかんざしどこで買った？」

ラブ

「あれは、海雪さんからもらったの！

2、3日学校行けない

理由はかぜでいいけど

1週間行けなかったら

理由どうしよう？」

サブ

「かぜのあと親知らず

抜いて、

はれてイタかったって言えば！」

ラブ

「ラブ！まだ1本も

親知らず生えてないん
です！

サブ

「そうか、じゃあ

盲腸の手術は？」

ラブ

「それにする！」

サブ

「もしかしたら、

2、3週間ココから

出られねーかもな！」

ラブ

「えっー！そんなに！
学校になんて言えば
いいの？」

サブ

「盲腸がいつぱい！
あつたつて言えば？」

ラブ

「クラスのみんなに
ドン引きされます！」

30分後…

火ろ志

「サブ！ラブ！

出る！」

サブ

「恐怖の取り調べが
始まるぞ！」

ラブ

「ラブ！泣きそうです！

火ろ志

「ラブ！」

ラブ

「わぁー！始まったよー！」

火ろ志

「サブ！2人は

証拠不十分で釈放だ！」

ラブ

「あつー！良かった！学校へ行ける！」

学校大スキ！

自分大スキ！ラブ！

火ろ志

「海雪さんらしき人物が中トロピカル島行きの船に乗ったと情報があつた！ベイと出動だ！」

サブ

「了解！」

ラブ

「父上！サブさん！

カッコイイ！初めて

生出勤見ちゃった！逮捕　されても良い事ってあるんですね！」

火ろ志

「良い事はなーい！」

1時間後、海雪らしき 人物が乗った船に 追いつくサブとベイ

2時間後、2隻の船は
中トロピカル島に着いた
船から降りてくる人々

サブ

「いたか？」

ベイ

「いいえ！」

ぼうしをかぶって サングラスをかけ

た女性が突然走り出した！

サブ

「ベイ！追え！」

追う2人！逃げる女性！

追いつくサブ！

女性のうでをつかむサブ！

サブ

「心配しないで！」

本部へ行きましょう！」

女性

「きゃー！ちかん！」

その女性は海雪では、 なかった！

サブ

「やられた！」

ハメられた！あなたは、
なぜ逃げたんですか？」

女性

「船の中で女性からお金を払うから船から降りたら、すぐ！」

100メートル 走ってね、とたのまれ たんです！

某日、中トロピカル島で…

勝校長にたのまれて 勝校長の

知り合いの社長の会社に仕事に來たりある

りあるが働く会社の

名前は 「COMPLETE (コンプリート)

SECURITY (セキユリティー)社」

警備会社だ

某日、

会社で…

りある

「今日から働く

りあるだ！よろしく！」

キッド

「よろしく！兄弟

さいこ

「よろしく！兄弟

いころ

「よろしく！兄弟

りある

「オレ！

ひとりっ子だよ！」

キッド

「オレもだよ！」

りある

「じゃあ、なぜ？兄弟」

キッド

「オレたちの

仕事は危険だ！それを

いっしょにやるからさ！

りある

「OK！兄弟！」

キッド

「オレたち

コンプリート

セキュリティー社の社員は中トロピカル島

での衣食住は、すべて無料だ！なぜかと言うとオレたちの会社の社長が この島をリゾート開発 してホテルや店を作ったからさ！」

中トロピカル島をリゾート開発したのは

コーヒーシュガー社だ

コーヒー豆とさとうきびの栽培で成功して

リゾート開発や

レジャー施設の建設も 行うようになった

現在も中トロピカル島となりのトロピカル島でコーヒー豆と

さとうきびの栽培は 続いている

りある

「オレたちの社長は、
2つの会社を経営
しているのかスゲーな！」

次の日の夕暮れ、
中トロピカル島のキレイな砂浜で…
波うちぎわを歩く

あんずとりある
夏まつりの時のように、あんずのデートの誘いを断れなかったりある
あんず

「この貝ガラを
耳にあててみて！波の音が聞こえるよ！」
りある

「聞こえない！本物の波の音がうるさくて！」
あんず
「目を閉じて！もっと！耳をすまして！」

目を閉じるりある。
1秒…3秒…5秒…
りあるのほっぺたに
何かふれる
あんず

「チュッ！」
りあるのほっぺたに
キスをするあんず
びっくり！して目を

開けるりある
照れるりある
あんず

「やっちゃったー！これで2人は一生

しあわせ！」

中トロピカル島でチュー（キス）した2人は結婚して一生　しあ
わせになるという　伝説がある！

次の日、中トロピカル島のコンプリート　　　セキユリティー社
で…

キッド

「りある！」

うでずもう、やろうぜ！

りある

「おもしろそう

だな！やろうぜ！」

さいこ

「何か、かけるか？その方が真剣になって
盛り上がるぜ！」

りある

「オレ！時計かける！

コレ！けっこう高いぜ！

キッド

「オレ！髪の毛！

負けたらボウズになる！

さいこ

「オレ！小指！」

りある

「ジョークだろ？」

いころ

「オレ！」

右目かける！」

りある

「いころまで

悪いジョークはよせよ！負けたらどうするんだよ？」

キッド

「よし！」

始めるぞ！1回戦はオレとりあるだ！」

さいこ

「レディ！GO！」

手にチカラを入れる

りあるとキッド

キッド

「あつ！負けた！ボウズか！」

りある

「いいよ！ボウズにしくても！」

キッド

「ダメだ！男の約束だ！」

髪の毛を切る

キッド

りある

「やらなくてもいいのに、やっちゃったよ！」

キッド

「2回戦は、

さいこと、いころだ！」

かけるモノ確認するぞ！

さいこは？」

さいこ

「すし！」

キッド

「変えるなよ！」

りある

「すしでいいよ！大トロうまいぜ！」

さいこ

「いなりずしだよ！」

キッド

「ふざけるな！」

さいこ

「はい！はい！

小指でした！」

りある

「かんべんして

やれよ！自分がボウズになったからって

やつあたりか？」

キッド

「うるせー！

いころは？」

いころ

「ステキな

ステーキ！」

キッド

「だから！変えるなつて！」

りある

「ステーキでいいよ！

サーロイン！」

「うまいぜ！」

いころ

「とうふの

ステーキだよ！」

キッド

「ふざけるな！」

いころ

「はい！はい！

右目でした！」

りある

「もう！やめろ！

小指と右目じゃ、

どっちが負けても大変な事になる！」

キッド、さいこ、いころの3人がビンに

入った赤い液体をスゴく

飲んでいる！

目がトローンとして

酔ったような状態

だ！

あの赤い液体は禁止薬物では？

キッドはゴクツ！と

赤い液体を飲んだ

キッド

「りある！

だいじょうぶだよ！

指と目をかけても！

今はいいい薬があるから

イタくねーよ！」

飲んでいる赤い液体の

事か？

さいこ

「りあるは

うるせーんだよ！」

さいこの目はトローンと

している！

ゴクッ！と赤い液体を

飲むさいこ

いころ

「右目かけるん

じゃなかったよ！」

りある

「そりゃそうだよ！やめろ！」

キッド

「レディ！」

りある

「やめろー！」

キッド

「GO！」

りある「やっちゃったよ！こりゃヤバイぞ

！」

がっちり手を組む、

さいこといころ

2人の手はプルッ！

プルッ！と震えている

10秒経過…なかなか
勝負は決まらない

「やめろ！」

りある

引き分けにしろ！」

キッド

「ダメだ！」

最後までやれー！

ワッ！ハッ！ハッ！」

赤い液体を飲んで笑う

キッド

さいこ

「右目はもらったぜ！」

いころ

「あつ！もう

ダメだ！」

右目をかけた、いころが

負けた！

さいこ

「やったー！」

男の約束だからな！

早く右目を出せ！」

いころ

「ちょっと待ってくれ！兄弟！

ジョークだよ！

わかってるよな！」

右目なんてムリだよ！ みんなも最初から

りある

「わかってるさ！

ワッ！ハッ！ハッ！」

1人で笑ったりある

キッド

「自分で言ったんだから責任とれよ！」

さいこ

「そっだよ！早く
右目出せ！」

ゴクッ！と赤い液体を

飲むさいこ
目がトローンとしている

りある

「キッド！さいこ！」

仲間：イヤ！兄弟だから許してやろうぜ！

キッド

「いくら兄弟でも
ダメだ！」

さいこ

「これは遊びじゃ
ねーんだよ！」

いころ

「あつー！
わかったよ！」

右目だったよなー？

ちくしゅー！」

キッド

「イタいぞ！」

さいこ

「薬！使うか？」

いころ

「イヤ！薬はいらねー！

赤い液体を一気に飲み 興奮するいころ！
いころ

「さいこ！

手を出せー！右目だー！
りある

「やめろー！」
いころ

「やめねー！」
いころはさいこの
手の平に指で

「右目」と
文字を書いた！

りある
「えっ！」
いころ

「オレ！右目
かけるって言ったよね？右目かける
右目書ける」
りある

「中学生かよ！」

同日、萌江戸の病院で…

体調を崩すラブ
オペスキー医師に盲腸の
手術をすると言われ
入院するラブ
ラブ

「みんなと

中トロピカル島へ 行けなくて悲しいです！

あゆめ

「手術して良くなったら行けるわよ！」

クラスメイトは 萌江戸アマチュアバンドコンテスト優勝の
副賞として3泊4日の 中トロピカル島旅行を もらった

バンドメンバーで決めた 出発の日が迫っていた

ラブ

「ゴホッ！ゴホッ！」

激しくせきこむラブ！

あゆめ

「ラブ！ラブ！」

火ろ志

「ラブ！ラブ！」

意識不明になるラブ

あゆめ

「かわいそうに…」

中トロピカル島旅行 楽しみにしていたのに…

オペスキー医師 「ラブちゃんには 心臓移植が必要で

す！ それと左目が失明して います！」

火ろ志

「早く手術をして下さい！私の心臓と目をラブにやります！」

あゆめ

「私を使って

下さい！」

オペスキー医師

「お2人の気持ちは
十分にわかりますが
それはできません！」

泣くあゆめ

オペスキー医師

「今！ラブちゃんに

適合する心臓と目を
捜しています！」

うなだれる火ろ志

病院の廊下がやけに

長く感じる…

2日過ぎ、3日過ぎた…

ラブに適合する
心臓と目は、

なかなか見つからない

弱っていくラブ！

1週間後、中トロピカル島のホテルで…

仕事でホテルの中を巡回
するりある

ホテル内の託児所で…

りある

「あれっ？あの
ちびっこは？」

子供に近づくりある

小雪

「あっ！

りーおにいちゃん！」

りある

「何で？ちびつこがココにいるんだ？」

小雪

「ちびつ子じゃないよ！右から読んでも
左から読んでも雪小雪！」

りある

「まだ！親に言わされているのか？小雪のママはホテルで働いてる
の」

小雪

「わかんない！

ママに電話して！」

りある

「ほらっ！

ママと話しな！」

小雪

「ママ！」

海雪

「小雪！どこにいるの？」

小雪

「わかんない！」

りある

「海雪さん！

小雪を託児ってどこへ？

海雪

「小雪は誘拐されて人質になっているんです

りある

「もう、だいじょうぶ！オレが海雪さんの所へ 連れて行くから！」

海雪

「そんな事したら

りあるくんが危ないわ！

りある

「だいじょうぶ！

オレにまかせて！

今どこにいるんですか？

海雪

「モンキービレッジの

モンキーパラダイスと

いうホテルにいます！」

りある

「すぐ！小雪ちゃんを

連れて行きます！」

古志田

「りあるさん！

そんな事したら

「あなたが危ない！」

小雪の他に、

ちびっこが

いた！

まりもちゃんだ！

まりもちゃんも人質

だった！2人を連れて

行こうとするりある

古志田

「待って下さい！」

りあるは古志田に一撃
した！

古志田

「ギャー！」

倒れる古志田

古志田^{こした}〃

託児所

「CHILD

(チャイルド)

SAFETY

(セーフティ)」の

保育士

この託児所の社長は

りあるが働いている会社の坂本社長

2人を連れて海雪のいる

モンキーパラダイスに

向かうりある

5分後…

古志田

「あつー！イテーなあー！あのバカヤロー！逃げきれねーぞ！」

電話する古志田

古志田

「りあるが人質2人と
逃げた！捕まえてくれ！」

キッド

「OK！」

兄弟が大変な事をしたぞ！捕まえるぞ！」

さいこ、いころ

「OK！」

1時間後、中トロピカル島の南海岸にある村、 モンキービレッジの

ホテル、
モンキーパラダイスで…

サブとベイは海雪のいる
ホテルをつきとめていた！

サブ

「私は改です！」

ココに海雪さんが
泊まっていますね！」

ビスカ

「いいえ！」

サブ

「少ないけど…」

現金をビスカに渡す！

ビスカ

「泊まっている

ような、泊まっていない

ような…

ベイ

「少ないけど…」

現金をビスカに渡す！

ビスカ

「あっ！泊まってました！128号室です！」

10分後、128号室で…

合いカギをビスカに
借りたサブ

そーとドアを開けた

生意気そうながきがいた

男の子

「おじさん！だれ？」

部屋には3人家族がいた

サブ

「あれっ！いない！」

男の子

「女の人が出て
いったよー！」

サブ

「ベイ！追うぞ！」

部屋を出て行く

サブとベイ

128号室で…

海雪

「ありがとう

ございました!」

男の子の母親

「あなたも大変ね

! あんな! いやらしい目をしたストーカーに
つきまとわれて!」

ストーカーに追われて いると言って、かくまってもらった海雪

15分後:

りあるが用意した船で 中トロピカル島を 脱出する
りある、海雪、小雪、
まりもちゃん!

30分後、海上で:

キッド

「いた! りあるだ!」

さいこ

「やるのか?」

いころ

「やるしかねー! 社長の命令は絶対だ!」

りあるの船とキッドの船を追う船が現れた!

海雪を捜している

東町改たちの船だ!

キッド

「船がくるぞ!

さいこ

「じゃまが入る 前にけりをつける！」

弓でありあるのノドと心臓 に狙いをつける、
さいこといころ！

さいこ

「ゴメンよ！」

兄弟！」

いころ

「許せ！兄弟！」

シュー！とするどい矢が

りあるに向かって飛んで行く！

ズバツ！と

さいこの矢が りあるの

乗っている船に

突き刺さった！

りあるは助かった！

3秒後：

りある

「うっ！」

いころの矢が、りあるの背中に刺さり貫通した！

りある

「ぶっはっ！」と

血を吐くりある！

キッド

「バカヤロー！」

あの世でまた、会おうぜ兄弟！」

キッド、さいこ、いころの3人は泣いた！

キッドたちは

中トロピカル島へ

戻った

大ケガのりある

東町改たちに助けを
ならみ

求める海雪！

「動かないで！」

りあるに応急処置をする！

りある

「うっー！イテー！」

小雪

「りーおにいちゃん
しっかりして！」

百寺

「この男子は？」

海雪

「北町学校の用務員の」

百寺

「あっー！」

ラブちゃんに負けた男子！」
りある

「オレ！東町でも
ラブちゃんに負けた

男子って言われてるんだ！」

百寺

「しゃべらないで！」

出血します！」

東町改頭の京町

「あなたが海雪さん
ですね？」

海雪

「はい！」

京町

「どうして盗聴機を？」

海雪

「子供が人質になりました。

そして言う通りにしないと子供を

太らせてサーカスの

大スターにすると脅迫

されました」

京町

「犯人の顔を見ましたか？」

海雪

「電話で指示をされたので見ていません！」

りある

「眠くなってきた！」

萌江戸に着いた

海雪

「りある君！
がんばって！」

小雪

「りーおにいちちゃん
死なないで！」

りある

「なるべく

死なねーようにする

また、みんなで

夏まつりに……」

手術室に入るりある！

次の日、萌江戸本町
火付盗賊すべて改本部
会議室で……

改大頭的美鬼

「サルは？」

火ろ志

「逃げられました」

西町改頭の八本木

「サルは捕まえました！

美鬼

「海雪は？」

火ろ志

「逃げられました」

東町改頭の京町

「海雪は捕まえました！

美鬼

「古い帆船は？」

火ろ志

「逃げられました」

南町改頭のきなわ
捕まえました！」

「古い帆船は

美鬼

「みんな！ごくろう
だった！30分後、また
集合してくれ！うまい

ラーメンの店を見つけた！みんなで食べに行くぞ！」

改頭たち

「了解！」

会議室を出る美鬼

美鬼「改大頭

（あらためおか

しら）「改頭のトップ

同日：

萌江戸でサルが3日連続1日に1人づつ赤ちゃんを誘拐した

事件は

今も未解決だ！

この日、報告された

古い帆船とサルは、

その事件とは

無関係だった

火ろ志

「みんな悪いなー！北町のサポート！」

きなわ

「ヒッピーは部下に

優しいから犯人にも
優しくしちゃうんじゃ
ねーの！」

八本木

「だから、サルと
古い帆船と海雪に
逃げられた？」

火ろ志

「部下には厳しくしているんだけどなあー！」
京町

「ヒッピーは優しいよ！きなわとちがつて！
きなわは怖いよー！」

きなわ

「オレは優しいよ！最近では部下がミスしても昔のように出血する
まで、なぐらねーから！」

八本木

「…って事は昔はミスした部下は血を
流してたんだ！」

京町

「なあっ！恐いだろ！」

八本木

「ヒッピーはガキの頃 から優しくて
から なあー！」

正義感が強かった

京町

「みんな覚えてるか？ 北町学校の勝校長が
オレたちのクラスに転校して来た日の事？」

火ろ志が小3の時…

萌江戸本町学校の教室で…

金・ニツク

「私をラブ！キレの 主人公にして欲しい！」

金・ニツク

韓国系アメリカ人。

タンクトップに短パンで筋肉がモリモリしている！

八本木

「先生が主人公

じゃーつまんなくね？」

金・ニツク

「今回はあきらめます！だけど

ラブ！キレ2の主

人公に絶対なつてやる！」

きなわ

「親に甘やかされて 育ったな？」

金・ニツク

「今日から

みんなといっしょに

勉強する勝九美男

（かつくみお）君

だ！ みんな！仲良く

して下さい！」

勝九美男「現在はラブが通っている学校の

校長

休み時間…

京町

「かつちゃんは、

どこから引越して来たの？」

勝

「江戸！」

きなわ

「うそつき！」

勝

「本当だよ！みんな
チョンマゲで刀をさして
いる！」

きなわ

「うそつき」

八本木

「テーマパークに住んでるのかよ！」

生徒たち

「うそつき！」

うそつき！うそつき！」

教室がうそつきコールで 騒がしくなる！

泣く勝！

火ろ志

「かつちゃん！」

泣くな！コノヤロー！」

とうそつきコールをしている、

きなわに片足タックルを仕掛ける 火ろ志 それをバックス
テップでかわし、火ろ志の背中に乗りつぶすきなわ

わずかなすきまを作り 体を左にずらすと同時にき

なわの右うでに、
うでひしぎ逆十字を
キメる火ろ志

アブラ汗のきなわ

ピーン！と右うでが のびきってしまった

火ろ志

「ギブ？」

きなわ

「こっちのセリフだ！」

ギブアップしないとケガするぞ！

きなわ

「ギブ…」

突然！クルツと後転して脱出したきなわ。

笑う2人

金・ニツク

「コラー！」

学校は格闘技禁止だ！

火ろ志！ひじをキメる

位置が2ミリ、ズレて

いるぞ！

だからきなわに逃げられたんだ！

きなわ！脱出と同時に

チヨークスリーパーだ！

もったいない！

口の中に豚肉と野菜を

入れると酢豚ができる

くらい、いつも先生が

口をすっぱくして言って

いる事が2人はなぜ？
できない？」

転校して来た

かつくみお
勝九美男

は九人兄弟の九番目
じゃね？と学校でうわさ
になった

現在に戻り…

美鬼が

会議室に入って来た

美鬼

「よし！みんな！

うまいラーメン食べに
行くぞー！あの店の子
カワイイぞー！」

きなわ

「目的は、そっち

かよ！

次の日、萌江戸北町で…

町長選挙に出馬する事にな
ったラブの学校の

勝校長

教育熱心で

知られ、ボランティア
活動もしていて人望が
ある

同日、萌江戸から船で

1時間の所にある、

大トロピカル島で金が

出た！金の鉱脈がある！

大トロピカル島の所有者は、コーヒーシュ

ガー社の坂本社長だ。りあるが働いている会社の社長だ

金の採掘地は誰でも

買えた

毎日、金が発見され

ニュースになった。

それを見た人々は自宅を売ったり借金をしたり

して争うように

れ人々は金持ちになり車を

買おうか？家を買おうか？うれしい悩みの毎日だ

大トロピカル島の 金の採掘地が完売

した 1週間後、

萌江戸北町学校の教室で…

金・ニックジュニア 「龍、ももの3人は引越しました！」

大学生

「なぜ？引越したんですか？」

金・ニックジュニア 「秘密なので話せ

ません！」

大学生

「父親の転勤ですか？」

金・ニックジュニア

「じゃあ話します！」

魔心

「秘密ばらすの早くね？」

金・ニックジュニア

「3人は就職のために

引越しました！」

大学生

「どこへ引越したんですか？」

金・ニックジュニア、 「3人と約束した

ので 話せません！」

大学生

「アメリカですか？」

猫多

「北朝鮮ですか？」

戸江萌

「トリニ...

トリニダ...

トリニダードトバゴ

ですか？」

金・ニックジュニア

「戸江萌！

トリニダードトバゴって
スラッ！と言えるように

練習しなさいって前に

言ったぞ！じゃあ！

話します！3人は

金の採掘をする会

社に 就職するために

大トロピカル島へ

引越しました！

魔心

「約束破るの

早くね？」

K

「3D、

解散しちゃうんだー！」

まみ

「クラスメイドールも解散だ！」

M

「悲しい！」

あんず

「一度に3人も

転校しちゃうし、

あいちゃんと、りある君は長期欠席だし

ラブちゃんは

入院してるし…」

1週間後、中トロピカル島で…

萌江戸アマチュアバンド コンテスト優勝の副賞で

3泊4日の旅行に来た

クラスメイドール

キレイな海！白い砂浜！ハイビスカスが

咲いている！

魔心

「あっー！やっぱ！

こっちの海はキレイだ！

猫多「魚もいっぱいいるし！

大学生

「そうですね！

この辺の海には魚介類の

エサになる、

動物性プランクトンが、豊富で島の周りに

は 魚の繁殖に適した

岩礁が多く、捕食者で ある大型の魚類が」

K

「セリフが長いよ！」

あんず

「ラブちゃんが

来られないのが残念です！」

就職した龍、し、ものの

3人も来た！

誰か来た

アロエロ

「クラス

メイドールサマデスカ？

K

「はい！」

アロエロ

「オマチシテイマシタ！ワタシハ

クラスメイドールサマノ

オセワガカリノアロエロ

デス！」

Ｌ

「アロエロさん読者が

読みづらいからカタカナ

やめてね！」

アロエロ

「ハイ！

ワカリマシタ！」

Ｌ

「今！注意した

ばっかだよ！」

まみ

「アロエロさん！

日本語じょうずね！」

アロエロ

「そりゃそうですよ！ 生まれは…はい！

どこでしょうか？

クイズね！」

むめ

「ヒントは？」

アロエロ

「最初の文字が…う」

M

「海！」

アロエロ

「魚かよ！」

せめて陸にしてよ！」

もも

「海の家！」

アロエロ

「最初の文字が、う…そして陸だから

海の家。うん！

いいぞ！…ってちがう！正解は宇都宮です！」

むめ

「何県？」

もも

「知らない！」

まみ

「それどこ？」

埼玉県？みんな！

おなかすかない？

3時のおやつに、まみの地元へ

ギョーザ食べに行かない？」

アロエロ

「どうぞ！」

みなさん！何でも
すか？」

しますよ！私、はだかになった方がいいで

まみ

「いいよ！」

そのままです！」

M

「マニキュアぬって！」

アロエロ

「はい！」

L

「くつ！なめて！」

アロエロ

「はい！」

むめ

「やめなさいよ！」

アロエロ

「いいんですよ！」

そのためのお世話係

ですから！何でもします！」

K

「家のローンの保証人になって！」

アロエロ

「実印、持って来ます！」

K

「ココにハンコ押して！」

アロエロ

「はい！」

まみ

「わぁー！」

やめなさい！

アロエロさん！

保証人になったら

生き地獄よ！」

アロエロ

「マッサージ

にしますか？

お食事にしますか？」

まみ

「アロエロさん！
3連休していいよ！」

戸江萌

「まず！何やる？」

猫多

「プール？カジノ？
ショッピング？寝る？」

魔心

「オレはバイクの
ハンドルの角度変えて、
太いタイヤを捜しに
夜になっちゃーな！」
行って、タイヤ交換して、それで

戸江萌

「自宅でやれ！」

龍

「プールに行きますか？」

竜

「いいですね！」

ホテルの屋上のプールへ
行く3D

K

「ショッピング行く？」

L

「イク！イク！」

ショッピングに行く
セクシー系3人組

むめ

「おなかすいたー!」

まみ

「ギョーザ食べに行こー

食事に行く癒し系3人組

それぞれ、やりたい事を

やり、中トロピカル島を 満喫して1日目終了

次の日、萌江戸の病院で…

ラブ!意識不明から

目覚める!

左目に眼帯をしている

中トロピカル島での

2日目、おそい朝食を

済ませリゾート地で

のんびりする

クラスメイト

龍

「今日は、みんなで

海で遊びませんか?」

K

「賛成です!

中トロピカル島の

キレイな海でみんなで 遊ぶ事になった

K

「まみ！龍様が

ホテルへ来てって！」

まみ

「えっ！早く行かなきゃ

むめ

「まみ！うそよ！
気をつけて！」

K

「むめ！じゃま
しないでよ！

まみが帰るところ
だったのに！」

L

「むめ！竜様が日焼け
したいからサンオイルと
オリーブオイルと
エンジンオイル買って
きてって！」

むめ

「エンジンオイルは
何リットル？」

L

「1000リットル！

むめ

「ドラム缶で5本ね？

トラック借りて…」

まみ

「むめ！だまされ
ちゃダメ！」

M

「りゅう様がももの
ビキ二見たくないから
海に消えろって言うてる

もも

「そんな事言っ
てないもん！りゅう様！
ももに優しいもん！」

K

「りゅう様はみんなに優しいの！やっぱり
この子たちとは仲良
くできないわ！勝負し
て勝ったチームだけ
が3Dといっしょに
いられるってのはどう？

まみ

「望むところよ！」

K

「夏まつりみたいなのはイヤ！一本勝負よ！」

まみ

「いいわよ！」

龍

「ボクが勝負の種目を決めてもいいですか？」

K、まみ

「はい！」

龍

「はい！引き分けです！」

まみ

「えっ！まだ何も

してないですよ！」

龍

「もう！終わりましたよ！」

さあ！みんな！

2人の笑顔勝負！
K
いっしょに泳ぎま

しょう！夏が終わっちゃうぞ！
「そういつとこスキ！」

同日、

退院するラブ！

左目に眼帯をしている
ラブ。自宅で…

火ろ志

「ラブ！」

くろおしょう
黒和尚

様の所へ剣のけいこに
行きなさい！」

ラブ

「黒コシヨー？」

火ろ志

「ちがう！」

黒和尚様だ！剣の道を

極めた7人の中の1人だ！」

ラブ

「あとの6人は？」

火ろ志

「あとで教える！

黒和尚のいる古寺は 高い山の頂上にある！

古寺へ行くには

9999段の階段を
のぼるしかない！

9999をかぞえるだけ

でも疲れるし、時間も

かかる！それが階段なら

もつと疲れるし、もつと

時間もかかる！

ラブ

「ふっー！やつと

着いた！こんにちは！

黒和尚様！剣のけいこを

お願いします！」

白和尚

「私は

しろおしょう
白和尚だ！私は剣のけいこは

やらない！」

ラブ

「塩コシヨー？」

白和尚

「ちがう！」

白和尚だ！黒和尚は、
あっちの山だ！」

ラブは、

まちがって

白和尚の所に来て
しまった！ラブのバカ！

階段を9999段おりて黒和尚様の所へ行

くのに

階段を9999段のぼる
のか？

19998をかぞえる だけでも疲れるし、
時間もかかる！

もつと疲れるし、

もつと時間もかかる！

ラブ

「失礼しました！」

階段をおり始めるラブ

白和尚

「ちょっと待った！その女子！剣のけいこの
代わりにためになる話をしてあげましょう！」

ラブ

「お願いします！」

白和尚

「ただし！クイズに正解してからです！
女子の名前は？」

ラブ

「ラブです！」

白和尚

「ラブちゃんって呼んでいいですか？」

「はい！」

ラブ

白和尚

「ラブ！クイズを出すぞ！答えろ！」

ラブちゃんと呼ばない

白和尚！

めんどくせー！じじい！死ぬまで生きろ！

白和尚

「カレイと

ヒラメの見分け方は？」

ラブは、こういうの

得意だ！スグ答え始める

ラブ

「はらを下にした時に

右に目があるのが

カレイで左に目があるのがヒラメです！」

白和尚

「ちがーっ！」

正座させられ、両手を

上に上げさせられるラブ！」

白和尚

「ラブは目で見た

モノを答えているだけだ！

目に見えるモノがすべて じゃないぞ！

むしろ目に見え

ないモノにこそ答えがあるのだ！

ラブは人生に迷いがあるから、そういう答

えしか答えられないのだ！」

ハッ！とす

るラブ！

ラブは得意になって
自分の未熟さが

答えた事を後悔し、
恥ずかしかった！

白和尚

「答えは、

お母さんがカレイなのが

カレイで、

お母さんがヒラメなのがヒラメです！」

階段をおり始めるラブ

白和尚

「ラブちゃん！

ちよっと待った！

限定10コのおいしい

プリンが冷えてるん

だけど、

ラブちゃんが

帰っちゃうんじゃ

他の女子にあげよつと！

白和尚の所に戻るラブ

ラブのためになる

話をする白和尚

同じ話を3回もする

白和尚

少しイラッ！と

するラブ

話が終わった

ラブ

「ありがとう

ございました！」

白和尚

「毎日来なさい！

9999段の階段を往復
するだけで、

1日終わるわ！とラブは心の中で言った！

ラブ

「はい！毎日来ます！」

と言って白和尚を

喜ばした

9999段の階段を

おりて家に帰るラブ

ラブ

「ただいま！」

火ろ志

「お帰り！黒和尚様は
強かっただろう？」

ラブ

「はい！限定の…」

イヤ！とても強かった
です！」

その後、黒和尚様の所
にも、白和尚様の所にも
ラブは一度も行っ
ていない
ちよつと気になるけど…

某日…

白和尚

「ラブちゃん毎日

来るって言ったのに！…

ブローグ2

某日、萌江戸北町の
コンビ二で…

男

「マネー！」

サバも切れる

サバイバルナイフを店員に、ちらつかせている！

木刀の一撃で強盗を倒すラブ！

次の日

「木刀少女

おてがら！」とニュースになった！

クラスメイドールが

中トロピカル島へ旅行に

行っってから1週間が

過ぎた

3泊4日で帰る予定

だったのに…

動く改！見つからない

クラスメイドール！

時間だけが過ぎて行く！

ラブ、勝校長、冬葉教頭 も動く！

冬葉教頭Ⅱ冬葉博士

勝校長は町長選挙の 選挙活動をやめ生

徒を 必死に捜した

中トロピカル島に着く ラブ、勝校長、冬葉教頭

女性

「おめでとうございます！あなたは777万人目の観光のお客様です
！」

と記念品を渡される 勝校長

記念品はガラスケースに入った五月人形だ

キラキラしたキレイな よろいかぶとを

付けた武者人形だ

3人は中トロピカル島で

クラスメイドルを

捜し始めた！

改たちやラブたちが

クラスメイドルを 必死に捜している時、

クラスメイドルは

こんな事になっていた！

K

「家に帰る船が、 ないんですけど？」

アロエロ

「上からの命令で

テーマーら3泊4日

から

364泊365日に

なっ た！」

L

「えっ！１年間じゃん！何で？」

アロエロ

「テメーらが

CDデビューすると

チェリーソーダのCDが売れなくなるんだよ！

チェリーソーダが

ビックになって、

いっぱいカネを稼ぐまで

テメーら！ココにいる！

ワッ！ハッ！ハッ！」

大笑いするアロエロ！

M

「あんなに優しかった

アロエロさんが急に

変わった！」

まみ

「大笑いしてるし！

むめ

「家に電話してみる！…あれっ？ケータイ
通じない！」

もも

「もものも！」

猫多

「オレのも！」

戸江萌

「ケータイ

持っていない！」

K

「買えよ！」

アロエロ

「テメーらの

泊まる小屋と

エサは用意 してやった！あつーあ！
めんどくせー！」

魔心

「アロエロ！ぶつとばす

L

「やめなよ！」

729泊730日 (2年間)に
なっちゃうよ！」

アロエロ

「よくわかってるじゃん！子ネコちゃん！」

L

「アロエロ！」

ぶつとばす！」

まみ

「やめなよ！」

1094泊1095日

(3年間)になっちゃうよ！」

数時間後、

クラスメイドルは

バスに乗せられ

高級リゾートホテルから

古い小さなホテルへ 連れて行かれた

そのホテルは

中トロピカル島の

北にある

スネークビレッジ という村にあった

古い小さなホテル、

スネークパラダイスで…

まみ

「キヤー！何で部屋
にへビがいるのよ！」

アロエロ

「ルームサービスだ！」

K

「テメー！アロエロ！」アロエロ 「ルームサービス
つてのはウソだよ！この村は へビを神の化身だと 信じている
ちよつと 危ない村だ！
部屋にいるのは たぶんのらへビだ！」

むめ

「のらネコって

思えば、ちよつと

カワイイね！」

L

「かわいくねーよ！」

あんず

「りある君が、
きつと助けに来てくれる！中トロピカル島の
チュー伝説信じる！」

同日…

萌江戸でサルが3日連続

1日に1人づつ赤ちゃんを誘拐した事件は今も 未解決だ！サルが
乗ったとみられる古い帆船と 3人の赤ちゃんは発見 されていない。
それに 事件を起こしたサルと サルを操っていると みら
れる人間も捕まっていない

同日、クラスメイドル
がバスで連れて行かれた1時間後…

クラスメイドルが 宿泊していた高級
リゾートホテルで…

サブ

「燃える赤に全部
かける！」
する

ルーレットが回転

シャー！

たまが投げ込まれる

カラ！カラ！…カラ！…

コトン！たまが黒に入る

サブ

「黒かよ！ベイ！
カネ貸してくれ！」

30分後…

サブ

「ベイ！」

ベイ

「もう！ダメです！明日の食事代が無くなります！」

サブ

「ベイ！オレの

ケータイの番号

ドの

教えたよな！だからベイのキャッシュカード

暗証番号教える！

それとキャッシュカード貸してみろ！

ちゃんと使えるか

どうか、オレが

カネおろしてみるから！

ベイ

「サブさん！もう！

ルーレットやめて下さい！」

サブ

「わかったよ！

ルーレットやめるよ！」

ベイ

「良かった！」

サブ

「次はスロットだ！

次の日、ホテル

スネークパダイスに

来た、ラブ、勝校長、

冬葉教頭

ラブ

「あんずちゃん！

搜したよ！」

あんず

「ラブちゃん！
怖かったよー！」

ホテルの前にヘビを
持った人々が集まって
来た！

村長

「この者たちを村
から出すな！」

アロエロが言っていた
ようにチエリーソーダがビックになるまで
この村に監禁する
つもりか？

ドン！ドン！ドン！
たいこの音に合わせて
ヘビを首に巻いて激しく
踊る村人たち！

村長

「女子！名前は？」

ラブ

「ラブです！」

村長

「ヒイ！ヒイ！
ヒイ！のヒイー！」

激しく笑う村長

「やめろー！」

戸江萌

はらへったー！」

村人に連れて行かれる

戸江萌

ラブ

「村長さん！」

やめて下さい！」

村長

「うるさい！」

猫多

「やめろー！」

眠いよー！」

村人に連れて行かれる

猫多

ラブ

「村長さん！やめて

下さい！」

村長

「うるさい！」

大学生

「やめなさい！」

私の友人のラブ君の 父上は萌江戸北町

火付盗賊すべて改

頭の 火ろ志氏ですよ！」

村人

「セリフが長いよ！」

村人に連れていかれる

大学生

ラブ

ラブ

「村長さん！

やめて下さい！」

村長

「うるさい！」

ドン！ドン！ドン！

たいこの音に合わせて

へびを首に巻いて

激しく踊る村人たち！

あんず

「ラブちゃん！

危ないよ！こつち来なよ！ラブちゃん！

左目だいじょうぶ？」

ラブは左目に眼帯をして

いた

村長

「ヒイ！ヒイ！ヒイ！のヒイー！」

ラブとあんずの所に村長が来た

木刀をギュツとにぎる

ラブ！

ラブ

「あんずちゃん！

逃げて！」

走り出すあんず！

村長

「あの女子を捕まえる！」

5、6人の村人があんずを追いかける

あんず

「キヤー！」

村人に捕まり

連れて行かれるあんず

男子はイタくされても

いいけど、

あんずちゃんはや！

人質を取られていては 戦う事もできない

！ラブ

村長

「あなたはコンビニ強盗を倒した
のラブちゃんですよね？」

「木刀少女」

ラブ

「はい！」

村長

「ニュースで見ました！あのコンビニの店長は 私の息子です！
本当に助かりました！」

村長はお礼にラブたちを

プチパーティーに招待

しようとしていたのだ！

男子たちとあんずは

プチパーティーの会場に 案内されただけだった！

プチパーティーが

始まった

テーブルに料理が

運ばれてくる

シェフ

「店長のおススメの

へびのチリソース煮です

」

「まみ！へびチリ

食べなよ！」

まみ

「エビチリみたいに
言うな！」

料理がドン！ドン！

運ばれて来る！

へびフライ！

へびシューマイ！

へびのタン塩！

豚足じゃなく蛇足！

酢豚じゃなく酢蛇！

麻婆豆腐じゃなく

麻婆蛇！

ドン！ドン！料理が

運ばれて来る！

魔心

「へびを大切にしてい

る村ってウソだな！

思いつきり

食っちゃってるよ！」

プチパーティーが

盛り上がってきた！

突然！ウー！ウー！と

大きなサイレンの音が
プチパーティー会場に
響く！

村人

「大津波が
来るぞー！みんな！船で島から脱出しろ！」

同時刻、中トロピカル島の海上で…

火ろ志

「あれは！」

古い帆船を発見した！

火ろ志

「あの船に3人の
赤ちゃんとサルとサルを操る人間が乗っている
かもしれない！」

古い帆船を追う火ろ志

同時刻、中トロピカル島の高級リゾートホテルの近くの海岸で…

サブ

「みなさん！
あわてないで
だいじょうぶです！」

大津波を避けるた

め、

島にいる人々を船で脱出させる準備をするサブ

火ろ志が追っている

古い帆船がラブたちが
いるスネークビレッジの
海岸に着いた！

古い帆船の船員

「みんな 早く乗

って！ 大津波が来るぞー！」

ラブ

「あつ！古い帆船だ！
ニユースでサルが
乗ったとか？乗らない
とか？何の事だろう？
まっ！いっか！」

古い帆船に追いつけない
火ろ志

ラブに電話する火ろ志
通じない！

救助船だと思い古い帆船に乗るラブ、
勝校長、

クラスメイドール 冬葉教頭、

その他大勢の人たち

古い帆船で…

アロエロ

「みなさん！

お飲み物にしますか？ それともマッサージに しますか？」

まみ

「アロエロ！また

態度変わった！」

魔心

「今までの分
ぶつとばす！」

K

「やめなよ！」

アロエロさんは誰かに
脅迫されてたんだよ！
たぶん！」

ラブたちが乗った

古い帆船を追う火ろ志

そこへ北町改本部の日田から電話！

日田

「頭！大変です！」

萌江戸で体長

10メートルのヘビが 100匹以上暴れ

て います！のらいヌ、

のらネコ、

のらパンダが巻かれて

しめ殺されたり、

かまれて丸飲みされて

います！」

火ろ志

「何！それで何匹か退治したのか？」

日田

「まだ1匹も退治

できてません。ヘビの

皮はじょうぶで動きも

速くチカラも強く
手こずっています!」

火ろ志

「わかった!」

動物に詳しい冬葉教頭に相談の電話をする

火ろ志

「冬葉さん!

今、萌江戸で 体長10メートルのヘビが100匹以上暴
れて いるんですが退治の方法何かありませんか?」

冬葉教頭

「ヘビチリ

ソースを使いましょう!

ネコの好物がマタタビの

ようにヘビの好物が

ヘビチリソースです!

ココにあります!」

バックの中を見る

冬葉教頭

「あっ! ない! そうだ! 貴重品として

ホテルのフロントに

預けてしまったんだ!」

火ろ志

「もう津波が 来ます! ホテルには

戻れません! 他の方法を

教えて下さい!」

冬葉教頭

「他に方法は

ありません！なぜなら
今、萌江戸で暴れている
ヘビは外国人科学者が
生物兵器として開発した
クローンヘビだからです

皮はじょうぶで動きが
速く、チカラも強く老化
もしません！
人間のチカラでは 倒せません！

クローンヘビを倒す、
たったひとつの方法は ヘビチリソースを
クローンヘビに
食べさせる事です！

もし！それができなければ、クローンヘビ
は 食べ物がある限り 生き続け増え続けます！
そして萌江戸の食べ物を
食べ尽くして無くなれば 人間を食べ始める
でしょう！」

火ろ志

「わかりました！
ありがとうございます

同時刻、
中トロピカル島の
高級リゾートホテルの
近くの海岸で…

大津波が来る！

島から人々を脱出させ
ようと準備をする

サブとベイ

サブに電話だ！

火ろ志

「サブ！高級

リゾートホテルに戻る
時間はあるか？」

サブ

「ギリギリです！」

火ろ志

「ホテルの

フロントの貴重品用

ロッカーに入っている

ヘビチリソースを取って

来て欲しい！

クローンヘビを倒す方法は、それしかない！
それがないと萌江戸の

人間がすべて

クローンヘビに食われる！」

サブ

「わかりました！

ベイ！オレはホテルへ
行く！」

ベイ

「もうすぐ出発
ですよ！」

サブ

「時間がきたら船を出せ！」

ベイ

「サブさんはどうするんですか？」

サブ

「出発に

まにあうようにするから
だいじょうぶだ！」

不安な表情を浮かべる
人々

ホテルへ急ぐサブ！

同時刻、ラブたちが
乗った古い帆船の船室で…
勝校長と冬葉教頭が
いる

テーブルには

777万人目の観光客の
記念としてもらった

記念品のガラスケースに
入った五月人形が置いてある

冬葉教頭「私はもう

お金には困らない！

校長！ココで死んで

いただきます！あなたを殺さないと私の命が

危ない！なぜなら私が
あなたを殺せる

リモコンを持って
いるから！」

勝校長「私は冬葉博士を殺しません！なぜ

なら

冬葉博士はシベリアの

永久凍土の氷の中で

カッチイ！カッチイ！に

凍っていた私とじいと

ポチ（サル）を蘇らせて

くれたから！感謝の心で

いっぱいです」！

勝校長に埋め込んだ

殺人装置を作動させる

リモコンを持っている

冬葉教頭！

冬葉教頭

「さようなら！」

死を覚悟したのか？

静かに目を閉じる勝校長

冬葉教頭のリモコンを

持っている手がかすかに

動いた！

次の瞬間！

ガッシャーン！と

ガラスが割れる
激しい音がした！

五月人形（武者人形） 「若様！」

武者人形がガラスケースから飛び出してリモコンを持っている冬葉
教頭の 手に刀を振り下ろした！

冬葉教頭

「ギャー！」

刀で手首をスパッ！と

切断して、すかさず首を スパッ！と切断して
血をドバッ！と出して

殺したかったけど

武者人形はやらなかったなぜなら

勝校長がさっき冬葉教頭を殺さないと 言っていたのを聞いていた
から！

武者人形は刀のみねで

冬葉教頭の手首を一撃 したただだった！

冬葉教頭が落とした

リモコンを拾う武者人形

武者人形 「冬葉！若様の お言葉がなかったら血の
海の中で死んでいたぞ！さあ！
どうする？」

勝校長

「冬葉博士、

萌江戸に帰ってから

ゆっくり話しましょう！

冬葉教頭

「はい」

武者人形がよろいかぶと
をとった

勝校長

「ポチ（サル）！」

勝校長が子供の頃に
飼っていたペットの
ポチ（サル）が
武者人形のコスプレを
していたのだ！

勝校長

「ポチ！なぜ？」

人間の言葉をしゃべれるんだ？」

ポチ（サル）

「私はじいです！ じいの脳はポチ（サル）に移植されました
！ 体はポチ（サル）でも 心は、じいです！」

勝校長

「まっ！いつか！

同時刻、中トロピカル島 の高級リゾートホテルの フロントで…
貴重品のリストのノート がない！津波の騒ぎの どさくさにまぎ

れて

誰かが盗んだのか？

ノートがないと

ヘビチリソースが何番の ロッカーに入っているかわからない！

ロッカーは300コも ある！1コ、1コ調べていたらベ

イが待つている船の出発の時間に

まにあわない！

大津波に飲み込まれて

死ぬ！

サブ「落ち着け、考える！ロッカーの番号か？

こういうのは真ん中だな？」

5、15、25と

番号の真ん中っぽい

ロッカーを調べるサブ

ロッカーには

時計、指輪、日記帳が

入っていた

サブ

「日記帳？

こんなモノ貴重品として

預けるか？」

他人の日記帳が気になる

サブ

サブ

「おっと！日記を

読んでる場合じゃねー！

再びロッカーを調べる

35、45、

55番のロッカーを

開ける！中はカラッポ！

65番のロッカーを

開ける！中はカラッポ！

サブ

「…って事は貴重品が入っているのは

55番のロッカーまで

だな？

300コ全部調べなくて

もすみそうだ！」

1番のロッカーから

調べる

箱がある

箱にヘビチリソースと

書いてある！

サブ

「1番かよ！」

ベイの待っている船に

戻るサブ

ベイ

「良かった！

まにあった！」

サブ

「良くねーよ！

日記帳、忘れた！」

同時刻、ラブたちが
乗った古い帆船で…

魔心

「この船、
幽霊船っぽくね？」

船が大きく揺れる！

もも

「キヤー！」

倒れる人々！

幽霊船が消える

前ぶれか？

子ザルが1匹現れた

勝校長が抱き上げた

勝校長

「母さんとはぐれたのか？ かわいそうに！

M

「校長先生はサルにも
優しいのね！」

むめ

「そりゃそうだよ！
町長選挙があるのに
選挙活動しないで私たち
を捜しに来てくれたん
だもん！」

子ザルは母ザルに甘える
ように勝校長のネクタイ
や髪の毛をさわったり ニオイをかいだりして
いる

勝校長

「くすぐつたい
からやめなさい！

この！いたずらっこ！」

子ザルを床に降ろす

勝校長

龍

「校長先生！」

冬葉教頭

「校長先生！」

M

「校長先生！」

なぜか？

みんな、

びつくりした顔で

勝校長を見ている

勝校長

「みんな！どうしました？私を見つめて！そんなに私はイケメンで
すか？

頭をさわる勝校長

勝校長

「あっ！」

子ザルが勝校長のカツラを取っていたのだ！

勝校長の頭は髪の毛が
なくヘビのタトゥーが

あった

L

「校長先生！カッラ
だったんだ！自然な
感じだったんで全然
わからなかった！」

M

「その自然な感じの
カッラ！パパに教えたい！メーカーどこですか？」

魔心

「校長！クール！

そのタトゥー！

ハンパじゃねーぜ！」

勝校長

「あっーあ！

これは本物とちがうんだ！美術部の生徒に
作品の練習に協力したんだ！
絵の具だ！すぐ消せる！

たのまれてアート

まみ

「生徒のためにそこまでするなんて、
さすが校長先生だわ！」

勝校長

「うっー！

苦しい！」

急にうなり声をあげ

倒れる勝校長

ポチ（じい）

「若様！」

冬葉教頭

「しっかりして下さいー！」

勝校長に人工呼吸と

心臓マッサージをする
冬葉教頭

心配する

クラスメイドール

30分後…

勝校長は死んだ！

泣くクラスメイドール

海が荒れてきた！

同時刻、

ラブの乗った

古い帆船を追う火ろ志

火ろ志

「ゴホッ！ゴホッ！」

激しくせきこむ

火ろ志

血を吐いた

病気は完治していないのか？

同時刻、中トロピカル島の高級リゾートホテルの 近くの海岸で…

サブ

「ヘビチリソースは

持ったし、ベイ！出発だ！」

ベイ

「了解！」

安心して笑う人々

女性

「子供とはぐれました！」

サブ

「どんな？お子さんですか？」

女性

「小学4年生の

男の子で車いすに乗っています！」

サブ

「ベイ！船に車いすの少年乗ったか？」

ベイ

「いいえ！」

サブ

「どこで、はぐれたんですか？」

女性

「あのホテルです！」

サブが遊んでいた
カジノがある高級
指さす女性

リゾートホテルを

サブ

「私に任せて下さい！
あなたは船に乗って
下さい！」

今、出発しないと大津波
に飲み込まれて全員死ぬ！
不安になる人々

どこかに電話するサブ

サブ

「ベイ！今、

電話して聞いたんだけど 車いすの少年は別の船に
乗ったそうだ！」

ベイ

「良かった！」

サブ

「ベイ！これで
カジノで借りたカネ 返した事してくれ！」

サブは自慢の金の
ネックレスをベイに
渡した

ベイ

「サブさんの大切なモノだし貸したお金の
倍以上です！
受け取れません！」

サブ

「ベイ！」

ベイ

「じゃあ！現金で
返済するまで預かるって
事でいいですか？」

サブ

「OK、ベイビー！ベイ！船長に出発する
ように言っ てきてくれ！

ベイ

「了解！」

船が動き出す
安心して笑う人々

サブは動く船から
中トロピカル島へ
飛び降りた！

それに気がつくベイ！

しかし、手おくれだった

サブ！この船に乗らないと大津波で死ぬぞ！

離れていく船

ベイに敬礼するサブ

敬礼の意味がわかった
のか、泣きながら サブに敬礼するベイ

20分後、高級リゾートホテルの7階で…

サブ

「おっー！いた！

いた！少年！名前は？

」

少年

「きお気生！」

車いすの少年は

エレベーターの前にいた停電でエレベーターが
止まりそこにいるしかなかった

サブ

「オレはサブだ！

よろしく！お母さんは

無事だ！気生！島から

脱出するぞ！」

気生

「ボクはココにいる！」

サブ

「ココにいと

大津波で死ぬぞ！」

気生

「死んでもいいよ！

サブ

「気生のマイブームは
自殺か？

死んでる

場合じゃねーぞ！少年！

気生

「車いすじゃ何もできないよ!」

サブ

「誰にだってできる事とできない事がある!」

気生

「サブさん!ボクはココで死ぬ!さよなら!」

サブ

「ムリ!ムリ!」

気生は死なねーよ!

世の中、死にたい人間は

死なねーようにできてるの!」

気生を置いて階段を

かけおけるサブ

3分後:

気生

「サブさーん!」

反応がない

気生

「サブさん本当に

行っちゃったよ!

津波が来る!

死んじゃうよ!ボク!」

サブは1人で
脱出したのか？

気生

「サブさーん！」

ズッバーン！ゴォー！

気生

「わぁー！」

ガラッ！ガッシャーン！

ドッカーン！バリッ！

大津波か？

気生

「サブさーん！」

サブ

「そんなデカイ声
出さなくても
聞こえてるよ！」

サブが気生をびっくり
させるために、いろいろな音を出していた

サブ

「気生はできる事を
がんばればいいんだよ！」

それに人生は自分で
楽しくするしかないよ！

気生

「サブさんには
車いすのボクのキモチ
わからないよ！」

サブ

「100%は
わからないけど
ちよつとはわかるよ！」

と言って何かをポンッ！と気生に渡した

気生

「あっ！」

とスゴく驚く気生！

サブ

「しあわせそうに
見える人も悲しい事が
いっぱいあるんだよ！
言わないから
わからないけど！」

何か考えている気生

サブ

「気生！オレの
左足返してくれ！」

サブに義足を返す気生

20分後、

高級リゾートホテルの
近くの海岸で…

船に乗り込むサブと気生

エンジンをかける

キュル！キュル！…

サブ

「かかってくれ！」

キュル！…

かからない！

サブ

「ここまで来て
そりゃないぜ！」

キュル！ル！ル！ル！

ドッ！ドッ！ドッ

エンジンが、

かかった！

サブ

「…だったら最初
からかかれよ！エンジン！ふうー！これで
助かるぞ！」

ドッ！…エンジンが

止まった！

キュル！…

サブ

「ダメだ！エンジンがかかんねー！」

気生

「サブさーん！」

サブ

「他の方法を考えるしかねー！心配するな！

津波のこねー高い所へ

行くぞ！」

20分後、

高級リゾートホテルに

戻る2人

ホテルの屋上で…

電話するサブ

サブ

「今、ホテルの屋上にいます！津波の情報を
下さい！」

北町改本部にいる日田

日田

「サブさん！今回の津波は14年前の大津波と同じ大きさです！
ホテルは大津波に
飲み込まれます！」

サブ

「わかりました！」

気生に何か説明するサブ

15分後…

サブ

「気生！ココに

いれば100%死ぬ！

オレが説明した通り

やれば100%助かる！

萌江戸でまた会おうな！

気生

「サブさんは？」

サブ

「2人はムリだ！

行け！気生！生きろ！」

気生

「サブさーん！」

サブから離れていく気生

サブ

「これで気生はOKだ！

火ろ志に電話するサブ

サブ

「頭！車いすの少年が飛んで島から脱出しました！船に乗せて下さい！」

火ろ志

「飛んで？」

サブ

「はい！もう津波が来ます！説明する時間ありません！」

火ろ志

「わかった！」

サブ！あきらめるなよ！

サブ

「はい！」

サブは屋上から下の階の

カジノへ行った

サブがベイにお金を借りてルーレットをやった
カジノだ

サブ

「人生の最後が

カジノか？オレらしいか？」

同時刻、船に乗っているベイ…

サブから預かった

金のネックレスを見る

ベイ

ネックレスに刻印がある

C O L D

ベイ

「金のネックレス

なら普通G O L D（金）

だよな？

まちがえたのかな？

それともサブさんの性格の事かな？
冷たいって！

大津波が来る！

14年前に火ろ志が
飲み込まれた大津波と
同じ大きさだ！

14年前の大津波では

大トロピカル島で
行方不明者が多く出た！

今、金の採掘で 盛り上がっている
大トロピカル島は どうなるのだろう
同時刻、ラブの乗って

いる古い帆船を追う
火ろ志！

火ろ志
「古い帆船なのに
なぜ？速い？
そこへ日田から電話が
きた

日田
「頭！今！萌江戸で
1000匹以上の
やんちゃなサルが
畑を荒らしたり耕したり店を荒らしたり店番したりして大暴れして
います！」
火ろ志

「ヘビの次はサルか？それで退治できそうか？」

日田

「それが普通のサルとは別物で手こずっています！」

火ろ志

「わかった！」

動物に詳しい冬葉教頭に 電話する火ろ志

火ろ志

「冬葉教頭ですか？」

先ほどは

クローンヘビの件

ありがとうございました！またアドバイスを
お願いしたいのですが？

冬葉教頭

「私は

クローンパンダを倒す、

パンだんごは持って

いませんよ！」

火ろ志

「パンダでは

ありません

サルです！」

萌江戸で1000以上の やんちゃなサルが大暴れしています！

そのサルたちは普通の サルとは別物らしく退治するのに
かなり 手こずっている

そうです！」

冬葉教頭

「サルですか？

退治するには

モンキーマジック

マッシュルーム

(MMM)がいい

ですね！

猫の好物がマタタビの

ようにサルの好物が

モンキーマジック

マッシュルームです！

ココにあります！」

バックの中を見る

冬葉教頭

冬葉教頭「ない！

そうだ！高級リゾート

ホテルの地下駐車場の

レンタカーだ！

火ろ志「もうすぐ津波が 来ます！ホテルには

行きません！あっ！

あのホテルには部下が

1人いるかもしれない！

しかし、地下駐車場に

行くのは危険過ぎる！

津波が来たら海水が一気に地下駐車場に流れ込み 海中と同じだ！

脱出は困難だ！

イヤッ！死ぬ！

他の方法を教えて下さい！」

冬葉教頭

「他を方法は

ありません！なぜならば
今、

萌江戸で暴れている

やんちゃで陽気で

フレンドリーな

開発した

クローンザルです！

サルたちは外国人類学者が生物兵器として

その特徴は…

知能が高い

ワナにかからない。

毒入りの食べ物

食べない

かけ算九九がスラスラ

言える

動きの速さと筋力は

3連休の2日目の

免疫力が強く病気に

ならない

老化しない

20代のサラリーマンと同じ

以上のような特徴から

人間のチカラでは

クローンザルを倒す事は

できません！

クローンザルを倒す

たったひとつの方法は

モンキーマジック
マッシュルームを
クローンザルに
食べさせる事です！

もし！それができないと

クローンザルは食べ物が ある限り生き続け
増え続けます！

そして、

萌江戸の食べ物を食べ尽くして
無くなれば人間を
食べ始めるでしょう！」

火ろ志

「わかりました！

ありがとうございます！

電話する火ろ志

火ろ志

「サブ！今！

どこにいる？」

サブ

「高級リゾート

ホテルの7階の カジノです！

頭！車いすの少年

は どうしました？」

火ろ志

「まだ！飛んで
来ない！」

気生は行方不明になって しまったのか？

火ろ志

「サブ！津波が
来る前に、たのみたい
事がある！」

サブ

「はい！何ですか？」

火ろ志

「そのホテルの
地下駐車場に冬葉教頭が
乗って来たレンタカーが
ある！そのレンタカー
からモンキーマジック
マッシュルームを取って
きて欲しい！」

サブ

「モンキーマジック
マッシュルームですか？」

火ろ志

「それがないと
萌江戸の人々が
クローンザルに食われる！」

サブ

「わかりました！」

火ろ志

「サブ！
酸素ボンベは？」

サブ

「酸素ボンベも
水中メガネも万が一に
備えて車いすの

少年にやりました！」

火ろ志

「津波が来て

地下駐車場に海水が

流れ込んだら酸素ボンベ

が無いと……」

サブ

「100%

死にますね！」

火ろ志

「私が行くまで

待て！」

サブ

「もう津波が来ます！今！モンキーマジック

マッシュルームを

取りに行かないと

ガレキと海水で捜せなく

なります！頭！今！

ルーレットをやります！

火ろ志

「今か？サブらしいな！どっちにかけた？」

サブ

「赤です！最後まで

燃えていたいですから！

火ろ志

「いくらかけた？」

サブ

「カジノに募金して
カネが無いんで命を
かけました！赤なら
オレは生きて帰れます！

火ろ志

「縁起でもない！
やめろ！私が行くまで
待て！」

サブ

「これは

オレの仕事です！

任せて下さい！

余裕です！

今までお世話にな

りました！ありがとうございます！」

火ろ志

「サブ！待て！」

電話をきるサブ

シュー！ シャー！

ルーレットを回すサブ

たまを投げ入れるサブ

コンッ！コンッ！

たまが弾む！

ルーレットが止まる！

サブ

「縁起でもない！」

地下駐車場に急ぐサブ

10分後：

サブ

「レンタカーか？」

レンタカーを捜すサブ

10分後：

サブ

「あれだな？」

ガッシャーン！

レンタカーの窓ガラスを 割りモンキーマジック

マッシュルームを

手に入れたサブ

ゴオッー！ゴオッー！

小さい音だが、とぎれる事なく何かの音が

聞こえる！

ズンッ！ズンッ！

足に地響きを感じるサブ！
地下駐車場の入口から

サアー！サアー！と

風がサブの方に流れて 来る！

サブの髪の毛が揺れる！

ザッバアーン！バリツ！

ゴオッー！ゴオッー！

地下駐車場に

大量の海水が一気に
流れ込んで来た！

ついに！大津波が来た！

ガッシャン！ガッンツ！

車が転がり車にぶつかる！

あっ！というまに

地下駐車場の天井まで

海水でいっぱいになった！

サブは水中から天井を

ぼおーと見ていた

同時刻、船を止めて

中トロピカル島の方を

見る火ろ志…

かすかだが煙が見える

大津波で土煙が上がった！そして中トロピカル島のアチコチで火災が

起きた！

火ろ志

「サブ！」

大津波はいくつもの島に ぶつかって消えた！

ベイの船、火ろ志の船、ラブたちが乗っている 古い帆船は大津波から 逃げ切った！

火ろ志

「サブ！もう少し待っててくれ！」

ラブたちが乗っている

古い帆船を再び追う

火ろ志

同時刻、ラブたちが

乗っている古い帆船で…

急死した勝校長を船室に
運ぶ冬葉教頭

船室から出る冬葉教頭

10分後…

ギー！

勝校長しかないはずの
船室のドアが開いた！

勝校長

「私の父が江戸時代に 作った犯罪組織が

「冷蛇」だ！父は

「冷蛇」のトップの

「冷蛇王」だ！

「冷蛇」

は

火付盗賊改たちに

滅ぼされ、父も殺された！

私は父の仇を討つ！

火付盗賊改のDNAを

持つ火付盗賊すべて改を

滅ぼす！

父の夢は江戸の征服 だった！

私の夢は

萌江戸の征服だ！

私は犯罪組織の

COLD（冷たい）

SNAKE（蛇）を作る

私なら

「冷蛇」の2・5倍スゴい組織を作る！…いや！2・6倍の…や
つぱり！ 2・7倍の… ちがうな
5倍の「

魔心

「何倍でもいいよ！

勝校長

「とにかく私は

「冷蛇」よりスゴい組織を作れるなぜなら私には

圧倒的な資金力！

圧倒的な組織力！

アットホームな雰囲気があるからだ！

ワッ！ハッ！ハッ！」

大笑いする勝校長

勝校長

「ムッ！おまえは

火付盗賊すべて改

頭の

火ろ志の娘だな？

ラブを見つけた勝校長！

勝校長

火付盗賊改の子孫！ おまえも火

付盗賊改の DNAを
持っているんだな？

父の仇を討つ！

ココにいる者たちは、 おまえの

おまえを殺す！
関係者だな？

おまえが

地獄で淋しがり屋さんに

ならないように全員

地獄へ送ってやる！

ワッ！ハッ！ハッ！」

笑いする勝校長

木刀をギュッ！とにぎる
ラブ！

アロエロ

「社長さん！」

ワインをどうぞ！」

勝校長

「おっー！」

気がきくな！名前は？」

アロエロ

「アロエロです！」

勝校長

「うまい！この

ワインは何年モノだ！」

アロエロ

「

昭和64年1月7日です！」

勝校長

「何！昭和最後の日か？」

アロエロ

「はい！」

勝校長

「気にいった！」

おまえを家来にして

やるぞ！」

ワッ！ハッ！ハッ！」

大笑いする勝校長

K

「アロエロやつ！」

調子いいんだから！」

冬葉教頭

「このままだと勝校長は

99.987654321%スゴく悪い人になる」

ポチ（じい）

「どうにかしろ！冬葉！」

冬葉教頭

「勝校長の記憶を
リセットします！」

そうすれば元の優しい
勝校長に戻ります！」

リモコンにパスワードを

入力して勝校長があくびをすればリセット
OKです！」

パスワードは

「HEART」

リモコンにパスワードを 入力した冬葉教頭

勝校長

「ハクション！」

ちくしょう！」

くしゃみをする勝校長
あくびをしない！」

勝校長

「じい！冬葉！」

萌江戸に城を築くぞ！」

いざ！萌江戸！」

ワッ！ハッ！ハッ！」

大笑いする勝校長！」

ポチ（じい）
！」

「どうした冬葉！若様はあくびをしないぞ

冬葉教頭

「私が作った

装置は故障しません！
もう一度！」

リモコンにパスワードを
入力する冬葉教頭

勝校長

「あー…」

あくびしそっだ！

安心する冬葉教頭と

ポチ（じい）

勝校長

「

あー…

ハクション！ちく

しょう！」

ポチ（じい）

「

くしゃみかよ！」

リセットできない

勝校長の記憶！

勝校長がラブたちの方に

歩いて来る

手には刀を持っている！

ポチ（じい）

「

ラブちゃん！

あんずちゃん！

逃げて下さい！ココは私に任せて下さい！」

勝校長の前に行く

ポチ（じい）

ポチ（じい）

「若様！

おやめ下さい！」

勝校長

も　　じゃますれば斬る！」

「いくら、じいぞ

ポチ（じい）

「若様！」

勝校長

「うるさい！」

ポチ（じい）

「ギャー！」

勝校長はポチ（じい）の
頭に刀を振りおろした！

ラブ

「じい！死なないで！」

じいは倒れラブに抱かれ　　ている

ポチ（じい）

「

ラブちゃんのムネに

抱かれ死んで行ける私は　　しあわせです！

ラブちゃん！シャンプー　　変えた？いいニオイする

ラブ

「じい！ケガして
ないよ！」

五月人形のかぶとを
かぶっていたので
助かった！

ラブ

「じい！重いよ！
あんずちゃん！じいを
たのみます！」

あんず

「うん！じい！
早くこっちにおいでよ！！殺されるよ！」

ポチ（じい）

「

あんずちゃん！
ココ切れてなーい？
血！出てなーい？」

あんず

「

だいじょうぶだよ！」

めんどくせー！じじい！

死ぬまで生きろ！

同時刻、ラブたちが
乗っている古い帆船を
追う火る志

10分後：

気生

「サブさん

だいじょうぶかな？」

気生はサブの説明通りに車いすからアドバルーンを1コはずした

気生の乗っている車いすはゆっくりと降下して　いく

そして、火ろ志の船に

救助された！

気生

「サブさんが2人は

ムリだからボクだけ

行けって…サブさんは？

火ろ志

「連絡がない！

たとえ姿が見えなくても

私たちの心の中にサブは

生き続けるだろう！」

泣く気生

同時刻、古い帆船で…

アロエロ

「社長さん！

ワインをどうぞ！」

勝校長

「おっ！気がきく

な！ 名前は？」

アロエロ

「アロエロです！」

さつき教えたよ！

勝校長

ワインを飲む勝校長
「うまい！この

ワインは何年モノだ？」

アロエロ

「

平成元年1月8日です！

勝校長

「何！平成時代の

最初の日か？」

アロエロ

「はい！」

勝校長

おまえを家来にして

「気にいった！
やるぞ！」

アロエロ

「ありがとう

「ございます！」

K

「アロエロのやつ

調子いいんだから！」

勝校長

「おまえたち全員
の血と肉を

「冷蛇王」の

墓に、おそなえする！」

戸江萌

「わぁー！殺される！」

勝校長

「だまれ！ドM！テメーはまわしつけて
しこふんで、塩まいて
ちゃんこ作つてろ！」

K

「それ！Kのセリフ！」

勝校長

「全員殺す！」

ラブ

「校長先生を倒します！」

勝校長

「小娘の相手は

小娘だ！おーい！ラブを
殺してくれ！」

誰か来た！

あい

「ラブ死んで！」

長期欠席していた

「あい」だ！

ラブ

「あいちゃんとは
戦えない！戦う理由を
教えて！」

あい

「教える！」

ラブ

「どうして？」

あい

「ラブが死んだら
教える！」

シユー！とあいが木刀を
振る！その音を聞いて
あいの剣のうでがラブと
互角か、それ以上かは
スグにわかった

ラブ

「やめて！」

あいちゃんとは戦えない

あい

「別にそれでも

いいよ！止まってるのを思いっ
きり打つだけ！止まってるのを殺
そうが戦って殺そうが
あいはそういうの
い結果がステキならば！
こだわらな

ラブのノドを一直線に
突くあい！

ラブ

「ふっ！」と寸前で
よけるラブ！

すかさずラブの脳天

めがけ、ビューー！と一気に木刀を振り下ろすあい！

紙一枚分の動きでかわす

ラブ！

うで！ノド！心臓！

連続で攻撃するあい！

寸前でかわし続けるラブ

ラブ

「やめて！

あいちゃん！」

無言のあい

カンッ！コンッ！

あいの攻撃を木刀で

受け始めるラブ！

木刀がこすれ

コゲくさい！

両手に持っていた木刀を すばやく右手一本で

持ちビューン！と

のばしたあい！

ラブはわかっていたが

かわしきれなかった

チョン！とラブのノドに

木刀の先が当たる！

微笑むあい！

ラブ

「ゴホッ！」

せきこむラブ！

口の中に血の味が広がる！

あい

「あいが自由になるための、たった1つの方法！それはラブを殺す事！

ラムネのビー玉じゃ

もうイヤ！」

ラブにトドメの一撃を

するあい！

その時、

船が大きく揺れた！

それと同時にあいの一撃をかわすラブ！

あい

「あっー！」

バランスを崩し船から 落ちるあい！

ラブ

「あいちゃん！」

あいは、あつ！と

いうまに海に消えた！

海が荒れてきた！

勝校長

「あいの役立たず

ラブ

「校長先生を倒します！

勝校長

「ラブ君！

実の父親を殺すのですか？ラブ君の母親は私の元カノですよ！」

元カノの前の彼女

ラブ

「そんなウソ！

小学生でもわかります！

勝校長

「家に帰ったら

お母さんに聞いて

みなさい！

あつ！聞けないか？

家に帰る時は、箱入り娘…イヤ！かんおけ入り娘だもんね！」

シュツ！シュツ！

と刀でラブに斬りかかる

勝校長！

ラブ

「いつもの優しい
校長先生に戻って下さい

勝校長

「私はいつもの
優しい校長だよ！

その証拠にまだイタく
してないでしょう？
ワッ！ハッ！ハッ！」
大笑いする勝校長

勝校長

「死ね！」

ラブのノドと心臓を
狙う勝校長！

寸前でかわすラブ！

ラブを本当に殺す気だ！

ラブ

「やめて下さい！」

勝校長

「やめます！」

ラブ

「あっー！良かった

勝校長

「ラブ君が死んでから
やめますよ!」

木刀をギュツ!とにぎる
ラブ!

勝校長

「そんな棒つきれ
あいと同じで役立たずだ

シュー!と刀を振る

勝校長!

刀を木刀で受けるラブ!

スパッ!と木刀は切断
された!

ラブ

「あっ!」

短くなった木刀を見る
ラブ

勝校長

「木刀が短く
なっても私を殺せる
でしょう? コンビニ強盗
を捕まえて、みんなに

チヤホヤされて天狗に
なっている木刀少女
だもんね！ワッ！ハッ！
ハッ！」

大笑いする勝校長

左目に眼帯をしている
ラブ

右目だけでココ
まで戦ってきた
それだけでも不利なのに
木刀が短くなって
しまった

そのうえ、あいととの戦いで体力は消耗している

圧倒的に勝校長が有利だ
勝校長は考えていた

まずは、ラブのうでに
ダメージを与え、
それからじっくり
むね、ノド、
はらを
イタくしてやろう！
いづれにせよトドメは
いつでもさせる！

ゾクッ！として自然に
顔がほころぶ

完全に自分に酔っている

勝校長

「それっ！」

ラブのノドを狙う勝校長

ヒザを少し曲げ上体を

そらし刀をかわすラブ

勝校長はわざと

斬らなかった

時間を

かけてじっくりラブを

イタくするつもりだ！

左目が見えれば勝校長と互角に戦えるのだが…短くなった木刀
疲れているラブ

ピッ！ピッ！ピッ！…

ニュース速報

あつ！今！ニュース速報　が入りました！

ラブちゃんに

悪いお知らせがあります

剣の道を極めた

勝校長です！

7人の中の1人が

7人の中に黒和尚が

いたの覚えてる？

あとの5人は？…

ラブが勝てる相手
じゃないぞ！

どうするラブ？

ラブはスカートを
チラッ！とめくり勝校長
に太ももを見せた
それをうっかり
見てしまう勝校長

ラブ

「えいつ！」

勝校長に一撃するラブ
寸前でかわす勝校長

勝校長

「ズルい女子ですね！
どこの学校ですか？
校長の顔が見たいですね

勝校長はラブを倒せる
と確信して余裕の表情で
笑っている

ラブ

「ラブ！キレまーす！」

ラブに斬りかかる勝校長
ラブ

「あつ！この攻撃は！ 上から振りおろした
刀を瞬時に 下から振り上げて

ノドへの突きで

トドメをさす三段攻撃だ！」

一瞬でラブはわかった！

なぜなら、白和尚様が

話してくれた黒和尚様の

必殺ワザだったから！

白和尚様に同じ話を3回 聞かされてイラッ！と
したから、

よく覚えていた。

ラブはその一撃をかわし

刀をサヤから抜く動作を木刀でした！

勝校長

「ギャー！」

勝校長は、はらから出血 している！ラブは木刀
しか持っていないはずだが？

実は木刀の中に刀

が

あつたのだ！

ラブ

「校長先生ゴメンなさい

勝校長

「ゴメンなさい

より応急処置を

お願いします！」

ラブ

「キズは浅いです！」

勝校長

「ラブ君！私は

もうダメだ！この指輪は ペアリングだ

もう1つは結婚を約束

した恋人が持っている

この指輪を形見として

恋人に渡して欲しい！

2つの指輪の飾りは

ピタッ！と合う」

ラブ

「恋人の名前を

教えて下さい！」

勝校長

「あ…」

ラブ

「あ…何ですか？」

首がガクッ！として

意識不明になる勝校長

勝校長の形見の指輪を

ポケットにしまうラブ。 勝校長から、

や その他、大勢の人々を 守ったけれど勝校長を

イタくしてしまったラブ

クラスメイドル

同時刻、大津波に

飲み込まれた

中トロピカル島で…

島の被害はスゴかった！

強度のない建物はすべて

海に消えた！

アチコチで

くすぶっていて

コゲくさい

サブがいた高級リゾート ホテルもボロボ

ロだ！

ホテルの1階から

7階…いや！

地下駐車場から屋上まで いたる所で魚が

泳いでいる！

高級リゾート水族館に

なってしまった！

地下駐車場は天井まで

海水でいっぱいだ

バsshャーン！

突然！水しぶきが

上がった！

場の 入口から

何か飛び出して来た！

そして、地下駐車

ピチッ！ピチッ！

魚だった

誰もいない島

風と波の音だけがする

静かに時間が過ぎていく
バsshャーン！

また魚か？

「ぷっはー！

助かった！」

サブ

地下駐車場の入口から

サブが出て来た！

サブは義足の中に

水中メガネと酸素ボンベ
を入れていた！
それを使って助かった！

サブ

「あっー！

義足で良かった！」

火ろ志に電話するサブ

サブ

「頭！任務完了
しました！」

火ろ志

「サブ！心配

したぞ！助かったと
いう事はルーレットは
赤だったんだな？」

サブ

「たまが無くなって
わかりませんでした」

火ろ志

「サブ！

ルーレットやるなら
送金するぞ！」

サブ

「一生やりません！

10分後、ラブたちが
乗っている古い帆船に
追いつき古い帆船に

乗り移る火ろ志

火ろ志

「ラブ！無事か？

ラブ

「はい！」

倒れている勝校長を見る

火ろ志

「これは？」

ラブ

「校長はスゴく
悪い人になって

しまいました。みんなを守るためにこうな

ってしまいました」

火ろ志

「私がもつと早く来ていれば…むっ！この頭の
へビのタトウーは…」

あつ！思い出した

14年前、私を海で

助けてくれたのは、

かつちゃんだったんだな

突然！バアーンと

爆発して

船が燃え始める

火ろ志

「みんな！早く！

むここの船に乗り移れ！

火ろ志が乗って来た船に 乗り移る

クラスメイトと

その他、

大勢の人々

傾き、徐々に沈み始める

古い帆船

火ろ志

「急げー！」

バアーン！二度目の爆発

ラブ

「父上！早く！」

火ろ志

「14年前の借りを返す！かつちゃんを助ける！」

バァーン！三度目の爆発

大きな火柱が立つ！

古い帆船は沈んだ！

ラブ

「父上ー！」

火ろ志を助けに海へ
飛び込もうとするラブ

あんず

「ラブちゃん！」

ダメ！死んじゃうよ！」

ラブ

「あんずちゃん！」

手を離して！父上ー！」

火ろ志は行方不明に
なった！

30分後、ラブたちが
乗った船は萌江戸に
着いた

ラブ

「父上と勝校長が
海で行方不明です!」

京町

「何!」

きなわ

「すぐ、捜しに 行く!」

八本木

「出動だ!」

同日:

江戸時代の犯罪組織 「冷蛇」はサルに
赤ちゃんを誘拐させて
売っていた

爆発して燃えて沈んだ
古い帆船には怪しいサル と誘拐された3人の 赤ちゃんは乗って
いなかった

萌江戸でサルに
誘拐された 3人の赤ちゃんは、 どこへ消えたのか?

火ろ志と勝校長は 古い帆船と燃えて灰に なってしまったの
だろうか? 同日、海で:

小さな船が浮かんでいる

火ろ志

「サブ！こんな船しか なかったのか？」

サブ

「はい！ エンジン付きの船は ダメでした！」

3日後、萌江戸北町で…

サブが必死で手に入れた

ヘビチリソースと

モンキーマジック

マッシュルームの チカラで100匹以上 いた体長10メー

トルの

クローンヘビと

1000匹以上いた

やんちゃな

クローンザルはすべて

死んだ！

クローンヘビと

クローンザルの死体が 町中にいっぱいある！

クローンヘビと クローンザルにイタく

された、

のらイヌ

のらネコ、のらパンダの 死体も町中に

いっぱいある！

あとかたづけをする人々

ポチ（じい）

「あんずちゃん！コレ！

おいしそうなニオイが

するよ！」

マッシュルームっぽい

モノを持って

酔っぱらったように

はしゃぐポチ（じい）

あんず

「おいしそうな

ニオイなんて、

全然しないよ！

サルにだけわかる

のかな？」

ポチ（じい）

「

このニオイ！もうガマン できない！食べちゃおう！」

それ！モンキーマジックマッシュルームじゃ

ないの？誰か止めて！

食べると死んじゃうよ！

パクッ！ムシャ！ムシャ！とおいしそうに

食べる

ポチ（じい）。

123秒後…

ポチ（じい）

「うー！」

苦しんで倒れる

ポチ（じい）！

あんず「じい！しっかり！ラブちゃん！」

ラブ「あんずちゃん！

どうしたの？」

あんず「じいが

マッシュルームっぽい

モノを食べたら急に

苦しんで倒れたの！」

ラブ「じい！早く！

食べたモノ吐き出して！」

じいは死んだ！

あんず「あんずが悪いの！あんずがアレを
取り上げれば、

ポチ（じい）は死なずにすんだのに！」

泣くラブとあんず。

冬葉教頭「イヤ！

あんず君がアレを

取り上げていても

ポチ（じい）は死んで

いたよ！

アレの二オイを

かいだサルは食べずには

いられなくなる！

食べれば死ぬし、

食べなければ

上司と部下にはさまれた中間管理職が感じる

ストレスと同じような

ストレスを感じ死ぬ！

ポチ（じい）は

心は人間だけど

体はサルだから

食べてしまったんだな

モンキーマジック

かわいそうに…」

マッシュルームを

1時間後：

クローンヘビ、

クローンザル、

のらイヌ、のらネコ、
のらパンダの死体を
乗せたトラックに

ポチ（じい）も 乗せられた！

そしてトラックは

火葬場へ向かった！

ラブ「じい行っちゃったね！」

あんず「あんなに

やんちゃだったのに！」

10分後：

ラブ「あつー！ いっぱい 泣いた！」

あんず「あんずも！」

ラブ「りあるのバカ！

とうとう、あんずちゃん を助けに 来なかった！

どこで

ラムネ…イヤ！油を

売ってるんだろう？」

あんず

「ケガでも

したのかなあー？

のらネコみたいに やんちゃだから！」

同日：

萌江戸でサルが3日連続 1日に1人づつ赤ちゃんを誘拐した事件
は今も 未解決だ！サルが乗ったとみられる古い帆船と 3人の赤
ちゃんは 発見されていない！ それに事件を起こした サ

ルとサルを操っている
とみられる人間も 捕まっていない！

あんず

「ラブちゃん

左目だいじょうぶ？」

ラブ

「うん！ちよつと

カユイだけ！」

左目の眼帯をさわるラブ

次の日、

萌江戸北町改本部で…

日田

「頭！今回、萌江戸

で暴れていたやんちゃん

クローンザルのDNAと

14年前に

ベイビーハウスに置いて

いかれた赤ちゃんが

持っていたサルの毛の

DNAが一致しました！」

火ろ志「そうなると、

今回のやんちゃん

クローンザルは14年前のサルの細胞から作られたんだな？」

日田「そうなります！」

火ろ志「今回は冬葉教頭のヘビチリソースと

モンキーマジック
マッシュルームがあつて
助かったよ！アレが
無かつたらと思うと
ゾッ！とするよ！」

日田「冬葉教頭はなぜ？アレを持っていた

んで
しょうね？いくら動物に 詳しいと言っても
不思議ですね？」

火ろ志「まさか！

冬葉教頭が14年前から
クローンザルを作つて
いたのか？」

日田「可能性は
ありますね！サルを何に
使うつもりだったん
でしょうか？」

火ろ志「サルを使うと

言えば「冷蛇」が
思い浮かぶな？」

日田「「冷蛇」は

江戸時代に滅びましたよ！」

火ろ志「ラブの話によると勝校長は

COLD（冷たい）

SNAKE（蛇）という

犯罪組織を作つて

萌江戸を征服すると

言つたそうだ」

日田「もしかすると

勝校長の萌江戸征服の
ために冬葉教頭が
クローンザルを作ったん
でしょうか？」

火ろ志「可能性はあるが

今は証拠が無い。」

同日、金の採掘で
盛り上がっていた
大トロピカル島で
金の採掘地サギが発覚
した！

金の鉱脈があると販売
された金の採掘地に
毎日のように発見された
金は誰かが計画的に
バラまいたモノだった！

誰がバラまいたかは
すぐにわかった！

金の採掘地を販売した
コーヒーシュガー社の
坂本社長だ！

りあるが働いている会社の社長だ！

絶望する

サギの被害者たち！
家を売ったり、借金を
したりして金の採掘地を

買ったんだもん
そりゃ絶望するよ！

金の採掘地を販売した
坂本社長は金の採掘地が
完売すると同時に
退職した！

坂本社長は偽名を使い、
変装していた！

次の日、
萌江戸北町改本部で：

取り調べを受ける
坂本社長の部下の

渋谷専務「元改頭」 火ろ志の元上司

火ろ志「頭は14年前の
大津波のアトどうなっただんですか？」

渋谷専務「もう頭じゃ

ない！やめてくれ！今は
立派なサギの容疑者だよ！」

ワッ！ハッ！ハッ！と
笑う2人。

渋谷専務「私は海へ 投げ出されて、気が ついた時には坂本
社長に救助されていた。それで恩返しのために
コーヒーシュガー社で
働いた」

火ろ志「そうでしたか」

渋矢専務「火ろ志は？」

火ろ志

「私もすぐに救助されました」

渋矢専務

「他の改たちは？」

火ろ志

「無事でした。」

京町、きなわ、八本木の

3人は改頭になりました

渋矢専務

「良かった！」

火ろ志

「サギについて

何か知っていますか？」

渋矢専務

「私は海外へ

行っていて何も

わからなかったよ！

たぶん坂本社長が1人で

サギったんだと思う。

金の採掘地の販売代金の

1000億萌円と

いつしよに行方不明

なんだから！」

1000億萌円〃

1000億円

30分後、留置場へ

入れられる渋矢専務。

渋矢専務は世間では

「レジャー王」と呼ばれていた。

りあるが地元で

「ラブちゃんに

負けた男子」と呼

ばれ

ているように。

なぜ？「レジャー王」と

呼ばれていたかという

中トロピカル島を

リゾート開発して、

いくつものレジャー施設を作ったからだ。

日田「

レジャー王と

れいじゃおう
冷蛇王

似てますね？」

火ろ志「似てるな！」

日田「渋矢専務は現代の「冷蛇王」にな

ろうと

しているのでは？」

火ろ志「まさか？」

日田「中トロピカル島

には「冷蛇」の子孫たちが住んでいます。

渋矢専務が何らかの

影響を受けて、犯罪を

犯しても不思議では

ないです。」

アルコ「行方不明の
坂本社長は

なぜ？金の採掘地サギを
したんでしょうか？」

ジーマ「そうだなあ、

大トロピカル島なら宅地 として販売しても、

スグに完売する

よ。 サギをする
必要はないよな！」

シュー「サギの被害者は

かわいそうですよ！

金が出ると思ってた掘って るのに、出てくるモノは 貝ガラや動物
の骨

ですから！」

由自「動物の骨ならいい

けど、人間の骨が出て
くると、ちよつと困り

ますね！」

日田「人間の骨も

出てくるかもしれません！14年前の天津波では
、大トロピカル島で、

行方不明者が多く出て
いますから！」

火ろ志「サブ！もし

自分の家族や恋人が
行方不明になつたら
どうする？」

サブ「必死に捜します」

探すか？」

火ろ志「サギをしても

サブ「あつ！もしかして！」

火ろ志「その、もしかしてだよ！坂本社長はサギをしてまで捜したい大切な人が行方不明になっただよ！

骨が発見されなければ

どこかで生きている

可能性があるし、

骨が発見されれば

引き取りたかったんだよ！

大トロピカル島を

金の採掘地として販売

すれば、島はすみずみ

までスゴく深く掘られ

行方不明者の骨は

確実に発見される！」

サブ

「坂本社長は

金の採掘地の販売代金の 1000億萌円と

いっしょに、ど

こへ

消えたんでしょうね？」

1000億萌円〃

1000億円…

同日…

萌江戸でサルが3日連続 1日に1人づつ

赤ちゃんを誘拐した事件は今も 未解決だ！サルが乗ったとみられ

る古い帆船と 3人の赤ちゃんは 発見されていない。

それに事件を起こした

サルとサルを操っている

とみられる人間も
捕まっていない。

同日、ラブの自宅で…

形見の指輪を

恋人に渡して欲しいと

勝校長にたのまれたラブ

ラブ

「恋人の名前が

「あ」だけじゃ

わかんないなあー！

あんずちゃん？

あいちゃん？

あつ！母上は

「あゆめ」だ！」

数日後…

大トロピカル島で…

金の採掘地サギの被害者

が、あと片づけを

している。

被害者「指輪と骨？」

土の中から指輪と骨が

出てきた！

ニュースになった。

ニユースを見たラブは
指輪と骨を保管している
萌江戸北町改本部へ
行った。

ラブ「父上！
大トロピカル島で発見
された指輪を見せて
下さい！」

火ろ志「ラブ！どうした
そんなにあわてて」
ラブ

「その指輪！
校長先生の形見の指輪と
ペアリングかも
しれないんです！」

火ろ志

「勝校長の恋人の
指輪か？じゃあ指輪と
いつしよに発見された
骨は勝校長の恋人の骨か？」
ラブに指輪を渡す火ろ志

2つの指輪の飾りを
真剣な表情で合わ

せる

ラブ。それを見守る
改たち。

ラブ「あっー！合わない！校長先生かわい

そう！

愛の奇跡ってないの！」

サブ「そんなドラ

マ

みてーな話ある
わけねーよ!」

火ろ志「ラブ! 私の指輪を返してくれ!」

ラブ「えっ!」

火ろ志「やつぱり私の

指輪じゃダメか?」

ラブ「父上!」

今度はちゃんと

大トロピカル島から
発見された指輪を渡した

2つの指輪の飾りを
真剣な表情で合わせる
ラブ。それを見守る
改たち。

ラブ

「あつー! 合わない! サブさんのバカ!」

サブ

「オレのせいだよ!」

サブのせいかな?

ラブが不器用なのか?

2つの指輪の飾りは

ピタッ! と合わない!

ラブ

「もう1回!」

勝校長の指輪には

REAL

恋人の指輪には
LOVE

と刻印がある。

REAL（本物）

LOVE（愛）

2つの指輪の飾りは
ピタッ！と合って
ハートの形になった！

ピタッ！と合って
本物の愛の指輪になった！
ラブ

「悲しい！」
泣きそうなラブ。

火ろ志

「ラブ！指輪は
ピタッ！と合ったぞ！
なぜ？悲しいんだ？」

ラブ 「2つの指輪は
ピタッ！と合って
本物の愛の指輪になったのに…
 やつとっしよに
なれたのに…

愛し合っていた2人は

もういない……」

考えている改たち。

火ろ志

「金の採掘地サギを

してまで行方不明

者を 捜したかった坂本社長。

金の採掘地

から発見

された、勝校長の指輪に

ピタッ！と合う指輪」

サブ「まさか！

坂本社長と勝校長は

同一人物なのか？」

日田「頭！指輪と

いつしよに発見された

骨のDNA鑑定の結果が

出ました！あの骨は

サルの骨です！」

火ろ志「サルの骨という 事は、勝校長の

恋人が 生きている可能性があるな？」

ざわつく改たち！

火ろ志「ラブ！勝校長は

他に何か言ってなかったか？」

ラブ「校長先生の父親は

「冷蛇王」だと言って

いました」

日田「冷蛇王」は

江戸時代の人間ですよ!」

火ろ志「そういえば

勝校長が小3の時、江戸 から来たって言うて
たなあ?」

日田「スゴい!ウソ
ですね!」

ラブ「それと

C O L D (冷たい)

S N A K E (蛇)という
犯罪組織を作ると言っ
ていました」

サブ「そのCSってのは「冷蛇」の
マネですかね?」

火ろ志「サブ!CS

だよ!CS!

CSでピーンと

きたよ! 日田!坂本社長が

関わっているモノの

名前をすべて教えてくれ!」

日田「了解!」

15分後、火ろ志にメモを渡す日田。

メモの内容:

坂本社長が関わったモノの名前。

C O F F E E

SUGAR社は坂本社長
が社長の会社。

C O M P L E T E

SECURITY社も
坂本社長が社長の会社。

C H I L D

SAFETYも坂本社長　が社長の託児所。

C A R N I V A L

STAR号は坂本社長が
所有する古い帆船。

C H E R R Y S O D A

はコーヒーシュガー社
が主催した、

萌江戸アマチュアバンド　コンテストで優勝した
バンドの名前。

メモを見て考えている

火ろ志。

火ろ志「坂本社長が　関わったモノの名前は　CとSではじまる

単語が多いな！勝校長が作ると言った犯罪組織

C O L D S N A K E

と同じCとSだ！偶然に　しては数が多いな？」

サブ「まさか！

坂本社長と勝校長は
同一人物なのか？」

火ろ志「他に情報は？」

日田「勝校長の頭の
へびのタトゥーは

「冷蛇」の紋章と同じ
です！それと

勝校長の名前ですが」

火ろ志「勝九美男

（かつくみお）普通だろ？」

日田「勝は「まさる」と
読めます」

火ろ志「しかし、小3の

時に転校して来た勝校長を担任の教師は「かつ」
と紹介したよ」

日田「それがまちがいだとしたら？九美男の九の意味ですが」

火ろ志「勝校長は

九人兄弟って学校で有名 だったよ！」

日田「もし！九人兄弟が
うわさだったら？

九の意味は十二支です。

十二支の九番目がサル
だからです。

も 十二支です。

九美男の美の意味

美^み

巳^みへび

勝九美男

(まさるくみお)

の 名前の中に
サルとヘビがいます。

まさるのサル。

十二支でサルが九番目
だから九

美^み

巳^みへび

サルは

「冷蛇」

が犯罪に使った大切な 仲間だから

人の名前に使ったんです

そしてヘビは

「冷蛇」を表しています」

火ろ志

「日田が推理した

勝校長の名前の意味と

頭のヘビのタトゥー、

そして今までの

発言と行動からして

勝校長は

「冷蛇」の

関係者かもしれないな！」

日田「勝校長は本当に

江戸時代の人間だったの かもしれませんね」

サブ「そんなバカな？」

日田

「江戸時代の死体

でも細胞が破壊されて

いなければ

蘇らせる事は可能かもしれませんが！たとえば
冷凍保存されていたとか」

サブ「冷凍食品を
電子レンジでチン！
するみたいにか？」

ワッ！ハッ！ハッ！
笑う改たち。

「冷蛇」はサルに
人間の赤ちゃんを
誘拐させて売っていた！

サルが3人の赤ちゃんを誘拐した事件は勝校長のしわざか？

サブ「結局、

頭にヘビのタトゥーが

ある男と

勝校長と坂本社長は

同一人物という事ですか？」

火ろ志「可能性はある」

ラブ「校長先生は
複数の人物を使い分けて
いたのかもしれないですね？父上のよう
に」

火ろ志「私のように？」

ラブ「はい！サブさん

たちには頭と呼ばれ
キレイなおねえさんと
いっしょにお酒が飲める　お店では社長さんと
呼ばれているようにです！」

火ろ志「母さんには
ナイショにしてくれ！」

1週間後：

渋谷専務は証拠不十分で　釈放された。そして
コーヒーシュガー社を
退職した。

同日：

勝校長が行方不明なので　冬葉教頭が校長になると　誰もが思っ
ていた。

突然！学校を退職する　冬葉教頭。

1週間後：

コーヒーシュガー社の

社長になる冬葉教頭。

同日：

萌江戸でサルが3日連続　1日に1人づつ赤ちゃんを誘拐した事件
は今も　未解決だ！サルが乗ったとみられる古い帆船と　3人の赤
ちゃんは　発見されていない。　それに、事件を起こしたサ
ルとサルを操っているとみられる人間も　捕まっていない。

この事件と、

金の採掘地サギに

関わったとみられる

坂本社長と勝校長が

消えた今、事件の真相は

誰にもわからない！

同日、

萌江戸北町改本部で…

ベイ「頭、ちよつと気になる事があるんですが」

サブから預かった

金のネックレスを

火ろ志に見せるベイ。

金のネックレスの刻印を見る火ろ志。

金のネックレスには

「COLD」と刻印がある。

火ろ志「勝校長が作ると 言っていた犯罪組織

「COLD SNAKE」

の「COLD」か？

まさか！サブが？」

同日、大トロピカル島で…

いくら穴を掘っても金は もう出ない。

サギだったから…

サギ被害者の男「

もしかしたら、

バラまかれた金の残りが
あるかもしれないぞ！」

シャベルで穴を掘る男。

1時間後…

ポーン！とシャベルを 放り投げる男。

男「ちくしょう！もう！米を買うカネもねー！
この世は神も仏も
いないのか？」

日が暮れた…

絶望の中で夜空を
見上げる男。

ポツッ！ポツッ！と

何か降ってきた。

男「ちくしょう！雨かよ！どこまでオレは運が
悪いんだ！」

バタッ！と倒れる男！

男「ワッ！ハッ！ハッ！」と大笑いする男。

運が悪すぎて気が

狂ってしまったのか？

男「これは雨じゃない！

原油だ！」

次の日、萌江戸北町の
コンビニのベンチで…

ラブちゃん！

あんずちゃん！

お元気で！

さようなら！…

ラブ

「えっ！」

あんず

「ラブちゃん！

どうしたの？」

ラブ

「今、ポチ（じい）の声がした！」

あんず

「声なんて聞こえなかったよ！

ポチ（じい）は死んで

トラックで火葬場へ

運ばれたよ！

ラブちゃんも悲しい結末を見たでしょう！」

ラブ

「だけど…」

あんず

「ラブちゃんは

夜おそくまで、

ケータイ小説書いてる

から、疲れてるんだよ！

それでそういうの

聞こえちゃったんだよ！」

30分後、家に帰る

ラブとあんず

10分後：

ラブたちがいた

コンビニのベンチに

カップルが座っている

サルカノ

「キイー！（ソレ！

恥ずかしいから、

取って！）」

サルカレ

「キイー！（はい！

はい！わかりました！）」

頭にかぶっていた

かぶとを取るサルカレ

サルカノ〓サルの彼女

サルカレ〓サルの彼氏

某日、萌江戸の

ベイビーハウスで…

ベイビーハウス〓

赤ちゃんを育てられない

親が赤ちゃんを

預ける施設

職員 A

「今日で

赤ちゃんが置いて

いかれるのは

3日連続、3人目ですよ！」

職員 V

「今までも

2日連続って事が

あったから3日連続でも

不思議じゃないよ！」

大津波から1ヶ月後、 萌江戸北町の

コンビニのベンチで…

ラブ

「りある君、

どこへ

行っちゃったんだろう？

あんず

「のらネコみたいに

やんちゃだから どうかで生きてるよ！
たぶん！」

ラブ

「あんずちゃん、

電話は？」

あんず

「毎日してるけど
通じない！

中トロピカル島の
伝説ってウソだね！」

ラブ

「どついう伝説？」

あんず

「今日は話す

気分じゃないの！

ゴメンね！」

ラブ

「いいよ！」

あとで教えてね！」

あんず

「うん！」

ラブ

「カユイ！」

左目の眼帯をはずすラブ

あんず

「ラブちゃん！」

左目の色、グリーンだよ！」

ラブ

「グリーン？あっ！」

何かを思い出すラブ

ラブの両目の元の色は
ブルー

あいの両目の色は
グリーン

りあるの右目の色は
ブルー

左目の色はグリーン

今のラブの右目の色は
ブルー

左目の色はグリーン

勝校長を倒した

木刀の中の刀を見るラブ

その刀は1つの柄に

2つの刀の刃が

並んでついている

ふたばとう

二刃刀と

呼ぼう！

1つはラブの刀の刃

もう1つの刀の刃を見て

ハッ！とするラブ

刀の刃に

「りある」と

彫つてある

コンビニで、ラブと

りあるとあいの3人で

ラムネを飲んだ時に

りあるに見せてもらった 刀だった

同日、

萌江戸北町改本部に

事件の情報が入った

14年前のサルが公園で

赤ちゃんを誘拐した事件
の情報だ

その情報によると
ベビーカーには
3つ子の赤ちゃんが
3人乗っていたそうだ

同日、

萌江戸北町改本部で…

火ろ志

「ゴホッ！ゴホッ！ゴホッ！」

激しくせきこむ火ろ志

血を吐いた病気は完治
してないのか？

同日、ラブの自宅で…

1枚の古い写真が
落ちている

写真を拾って見るラブ

その写真には、
ふたこの若いギャルが
写っていた

ラブ

「母上！ふたごだったんだ！」

次の日、萌江戸の海岸で…

久しぶりに家族3人で

海に遊びに来た

砂浜を歩く3人

火ろ志

「母さん！私が血を 吐いて入院した時

に オペスキー医師と

母さんが話していた事をラブに話し

てもいいかい？」

あゆめ

「お父さんの自由ですよ！」

火ろ志

「ラブ！父さんが

血を吐いた病気は

今の医学では治せない！

父さんは余命3ヶ月だ！

ラブ！母さんを

たのんだぞ！」

ラブ

「えっ！ウソ！

やだよ！そんなの！」

泣くラブ

火ろ志

「ゴホッ！ゴホッ！ゴホッ！」

激しくせきこむ火ろ志

あゆめ

「お父さんは

余命3ヶ月では

ありませんよ！」

火ろ志

「母さん！

もう隠さなくても

いいんだよ！私は

オペスキー医師と

つたんだよ！」

母さんが話していた事をすべて聞いてしま

あゆめ

「お父さんの

勘違いですよ！

あの時、オペスキー医師は、

この病気は

一生治らない

病気ではありません！

3ヶ月のリハビリが

必要です！と

言っただですよ！」

火ろ志

「そうだったのか！」

ラブ

「良かった！」

火ろ志

「まだ！死ねない！

ラブの結婚式に出席して、孫とキャッチボール

やって、孫の結婚式に 出席して、それから…」

あゆめ

「お父さん！

何歳まで生きるのよ？」

火ろ志

「八宝菜！」

あゆめ

「今日は久しぶりに外食しましょうね！」

ラブ

「やったー！」

火ろ志

「ラブ！」

何が食べたい？」

ラブ

「八宝菜！」

ワッ！ハッ！ハッ！と

大笑いする3人

大洗の海岸じゃないのに…

茨城県の人には

ウケるんですけど…

同日の夜、

古い帆船が沈んだ海に

黒い巨大な物体が現れた

ラブ！キレ

完

回予告

ラブ！キレ2

次

黒い巨大な物体の正体

キレるラブ（3回目）

冬葉社長の野望

黒和尚VS白和尚

りあるは冷血

愛^{あい}浮上

二刃刀VS三刃刀

蘇る勝校長（3回

目）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2711d/>

ラブ！キレ（日本語版）

2010年10月11日08時06分発行